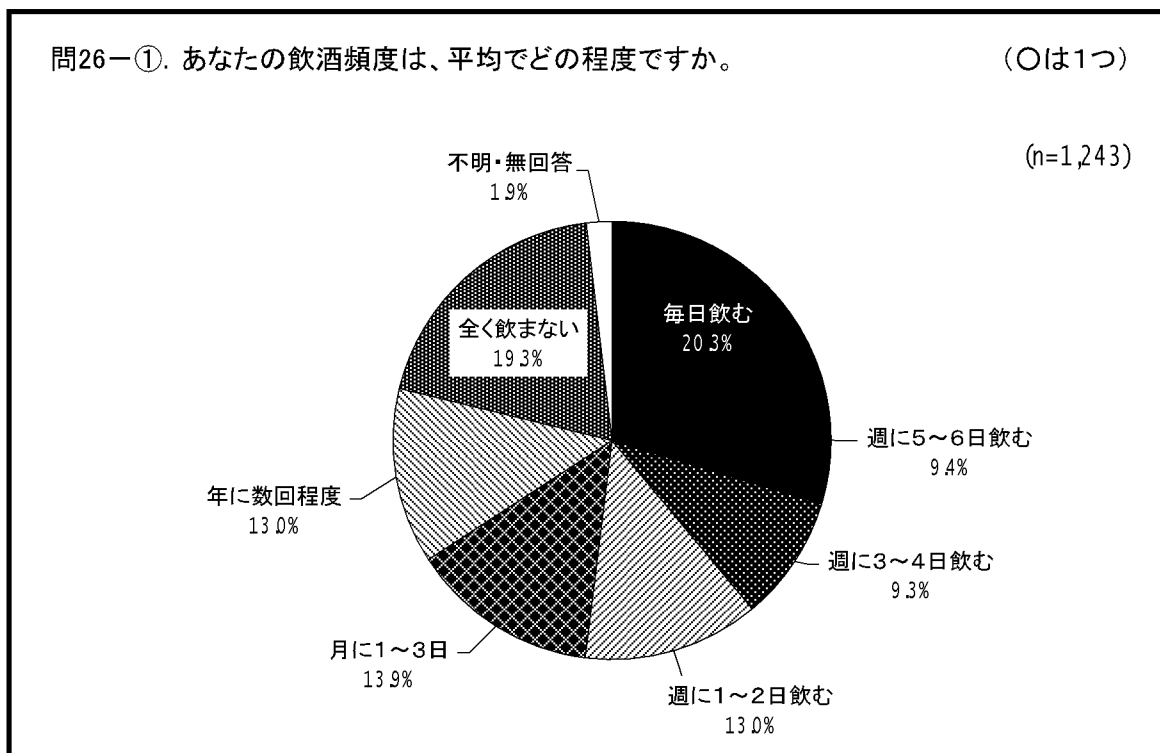


(8) 飲酒について

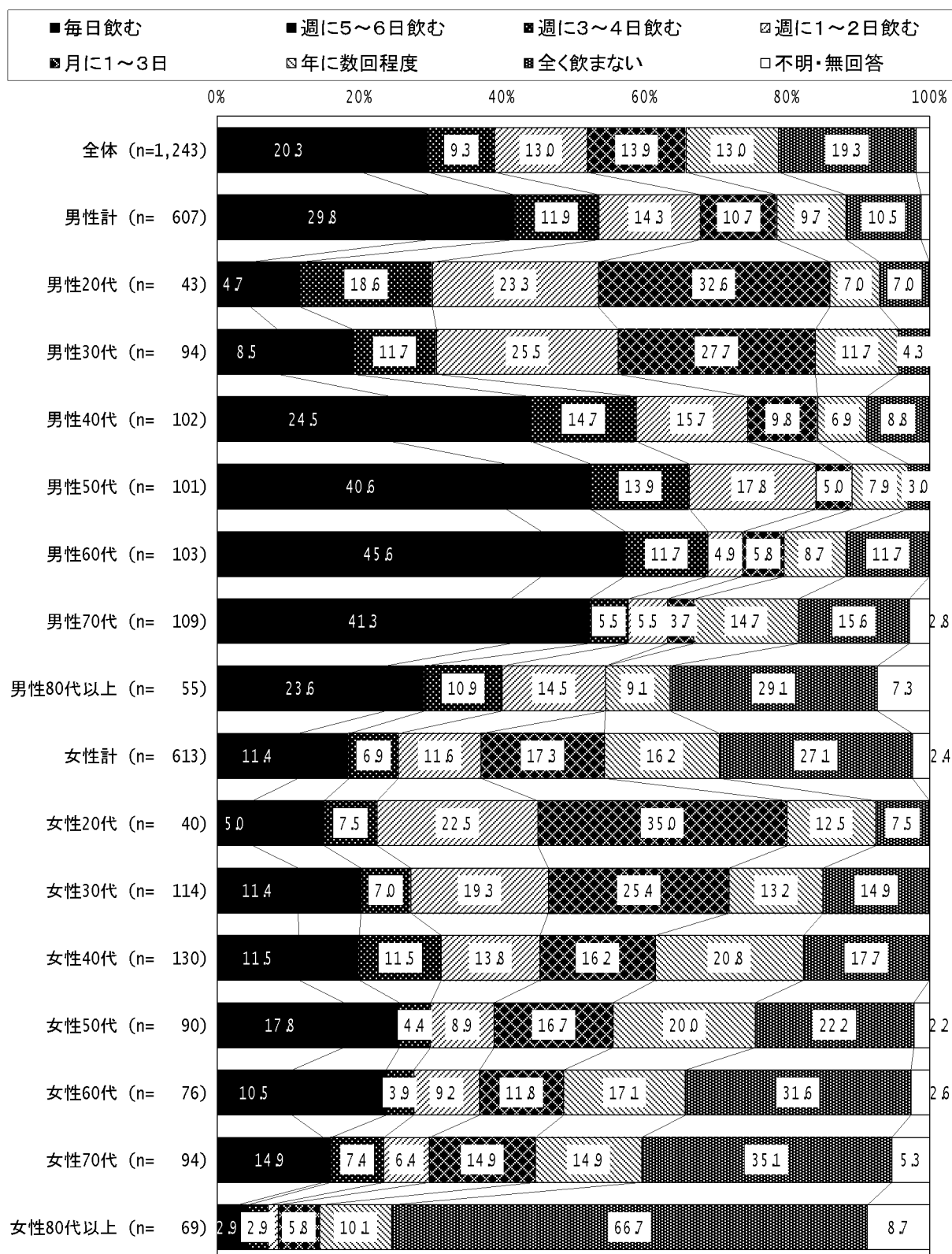
飲酒頻度



飲酒頻度は、「毎日飲む」が20.3%と最も多く、次いで「全く飲まない」(19.3%)、「月に1~3日」(13.9%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「毎日飲む」は男性50代~70代で4割を超えて多くなっている一方、男性20代~30代、女性20代と80代以上では1割を下回っている。

<性別・年齢別 飲酒頻度>

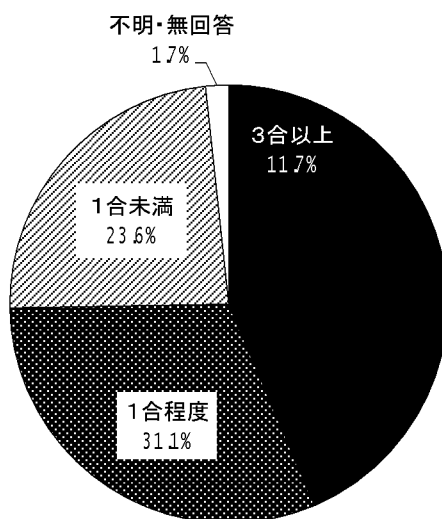


1日当たりの飲酒の量

問26-②. 日本酒換算にして1日当たりどれくらいの量を飲みますか。

(○は1つ)

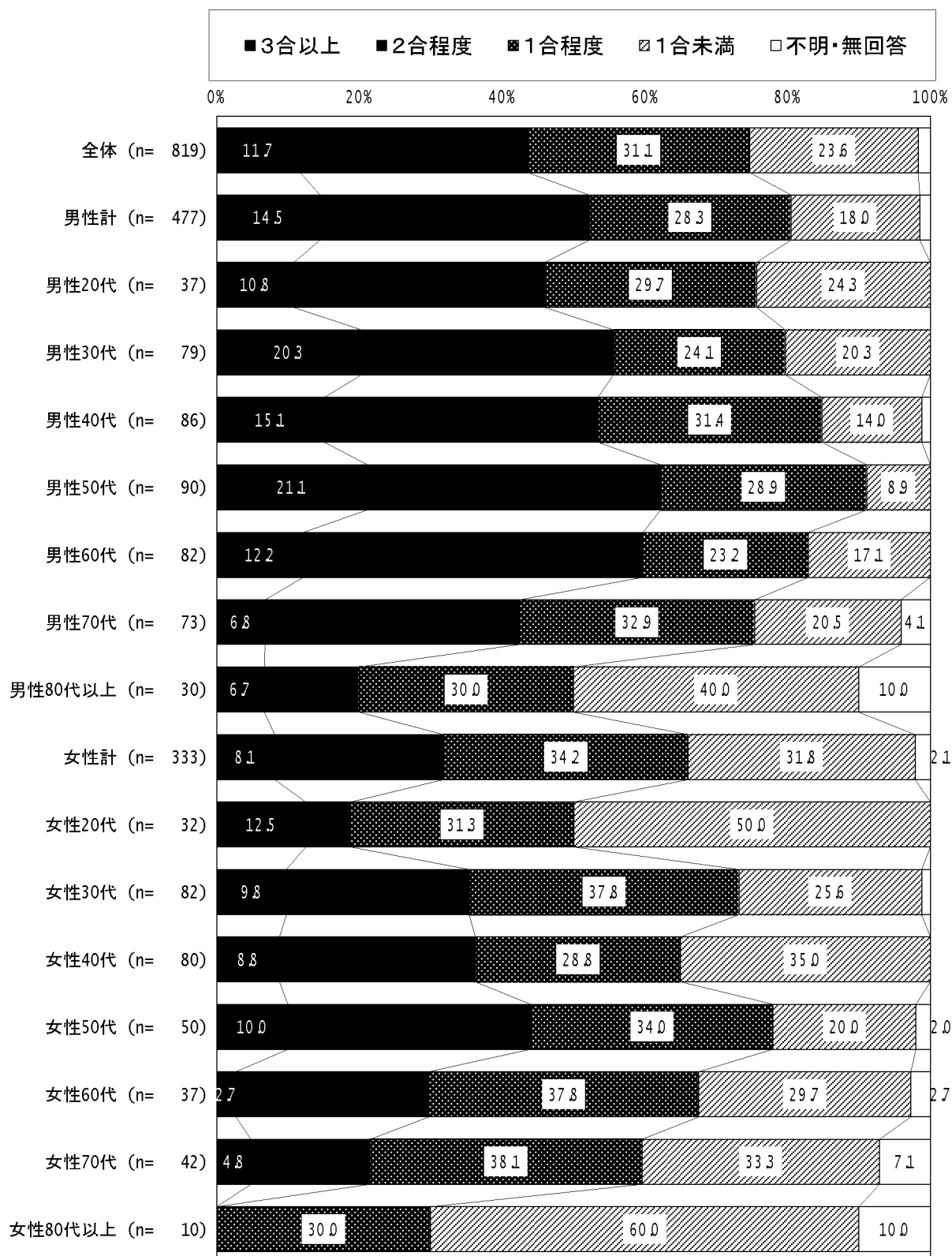
(n=819)



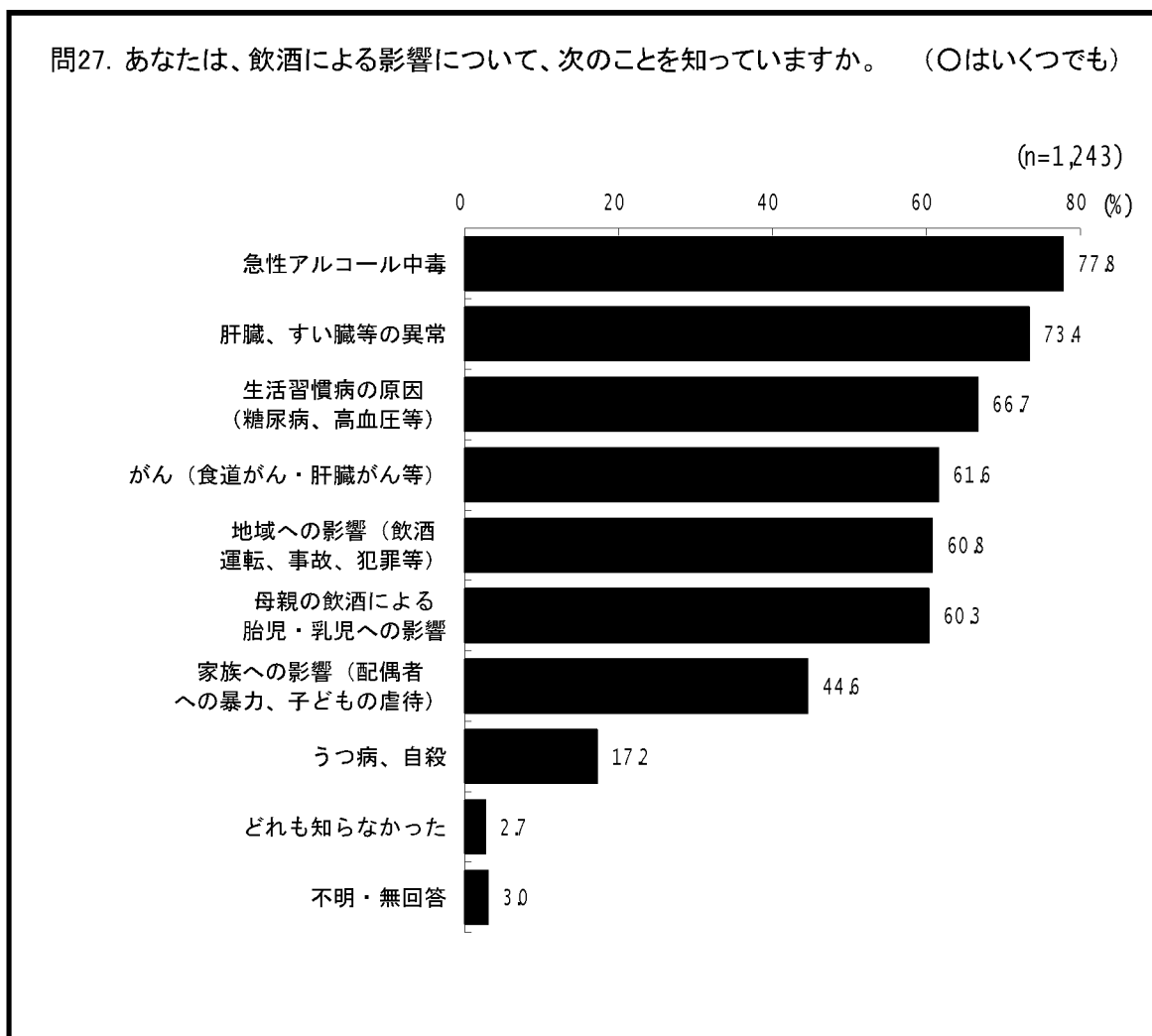
飲酒頻度が月1回以上の人に、1日当たりの飲酒の量をたずねたところ、「2合程度」が31.9%と最も多く、次いで「1合程度」(31.1%)、「1合未満」(23.6%)、「3合以上」(11.7%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「3合以上」は男性の30代と50代で2割を超えていた。

<性別・年齢別 1日当たりの飲酒の量>



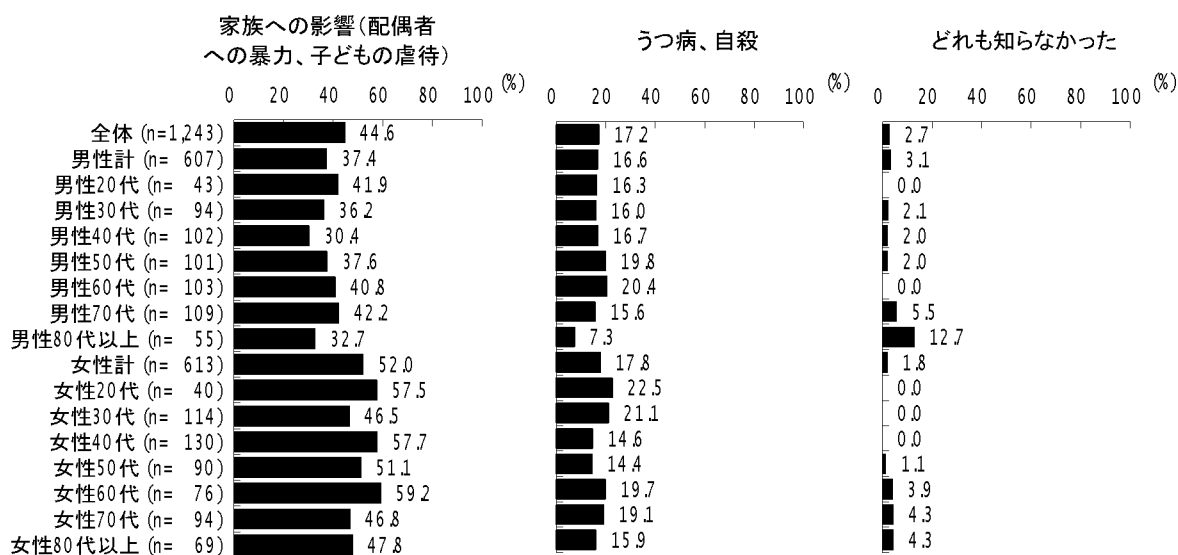
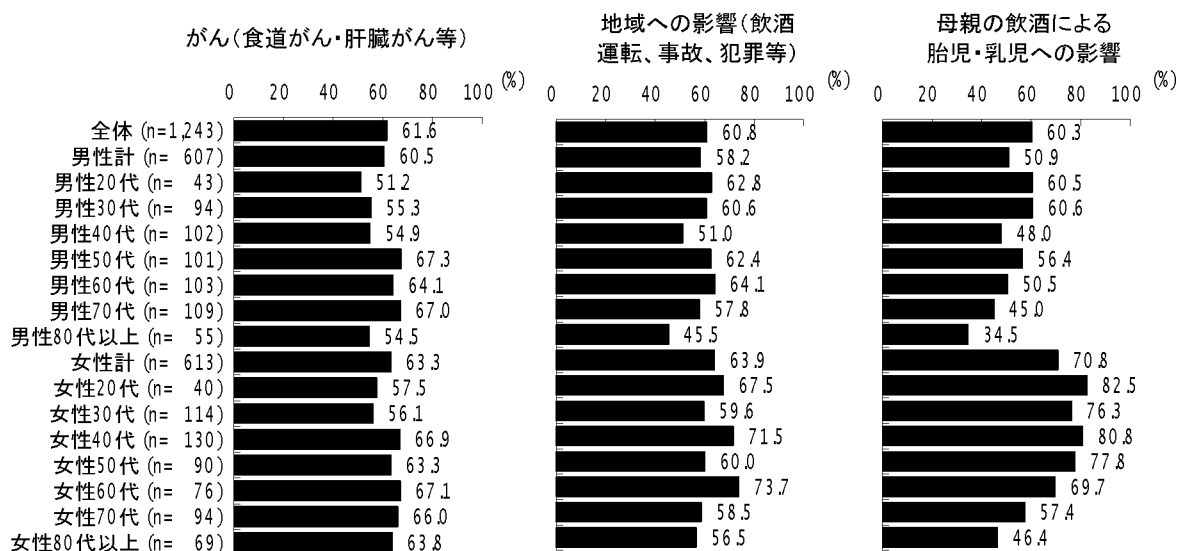
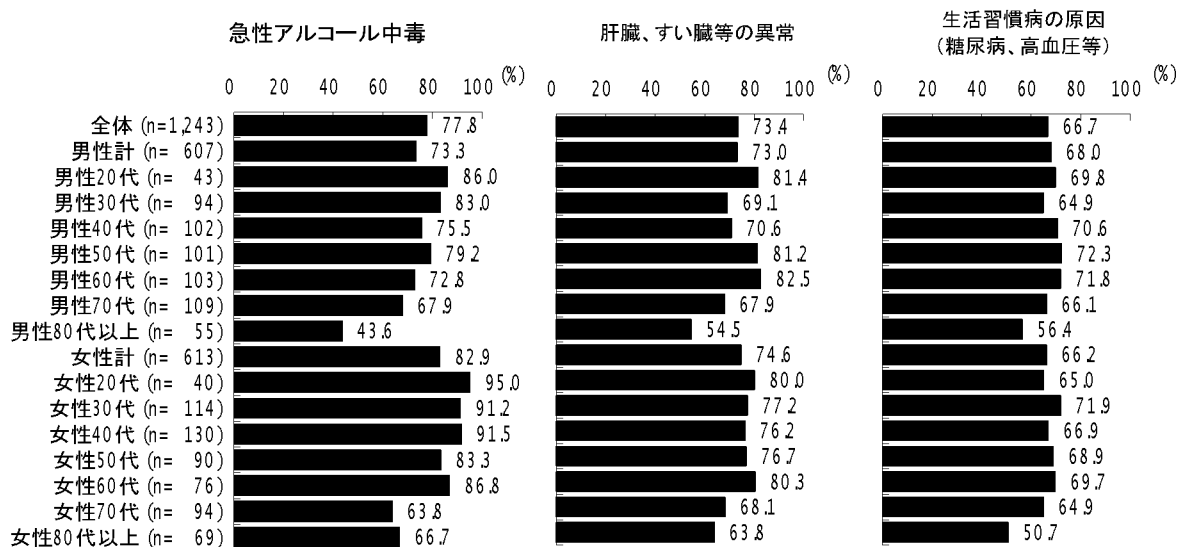
飲酒による影響についての認知状況



飲酒による影響についての認知状況は、「急性アルコール中毒」が77.8%と最も多く、次いで「肝臓、すい臓等の異常」(73.4%)、「生活習慣病の原因」(66.7%)の順に続いている。

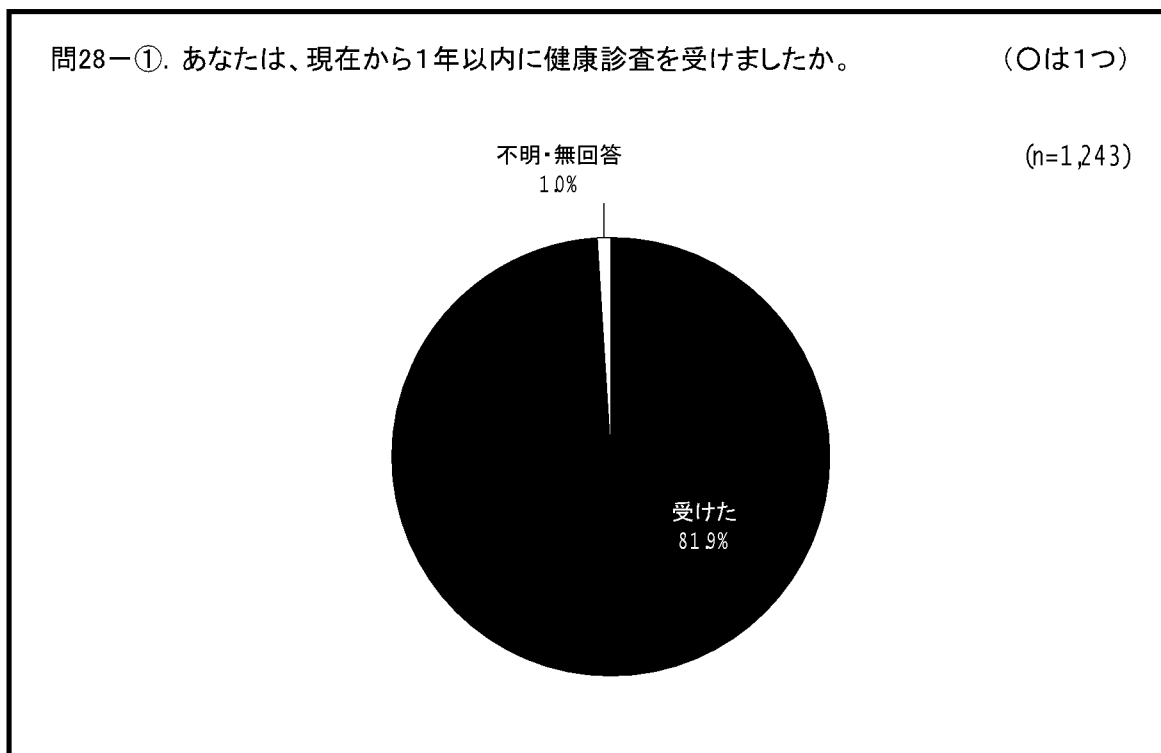
性別・年齢別にみると、「母親の飲酒による胎児・乳児への影響」については、ほぼ全ての年齢で、女性は男性より20ポイント近く高く認知していた。

<性別・年齢別 飲酒による影響についての認知状況>



(9) 健康管理について

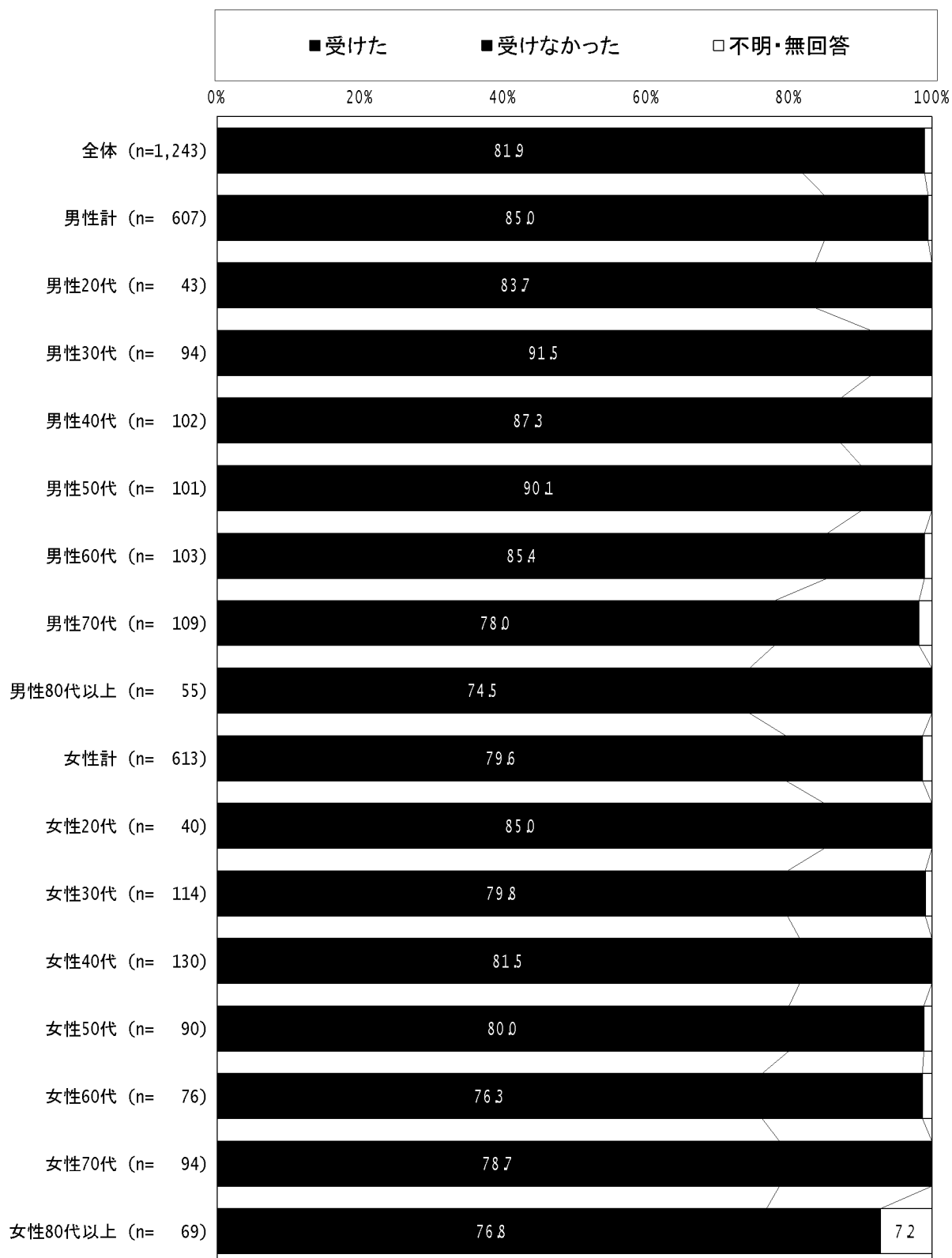
1年以内に健康診査を受けたか



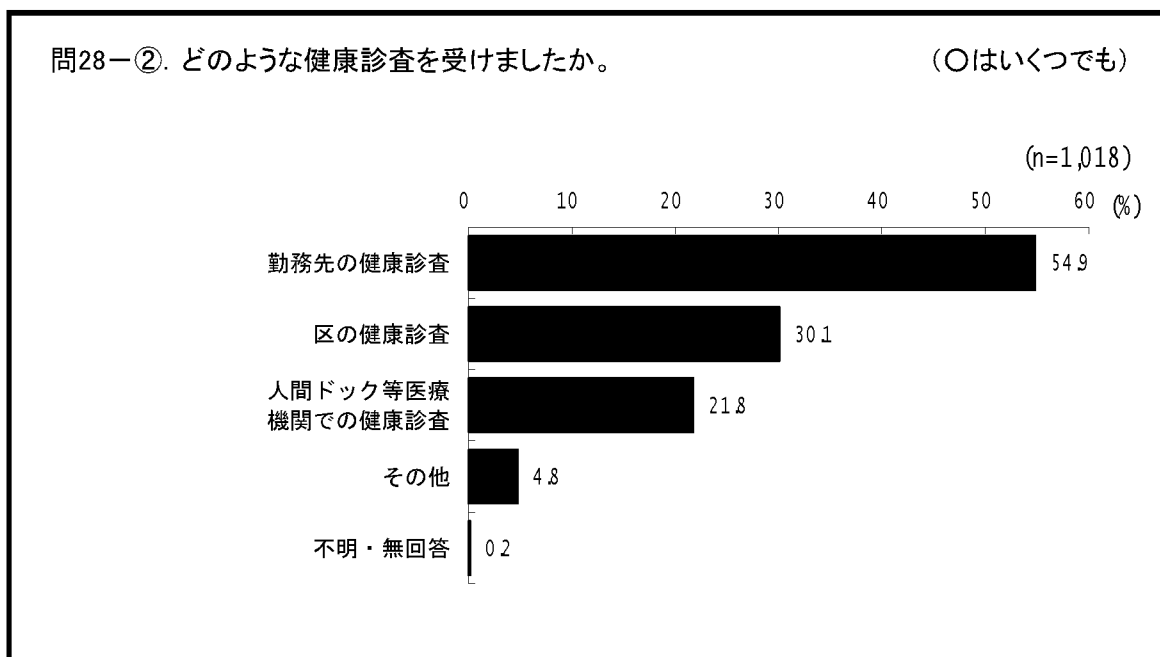
1年以内に健康診査を受けたかは、「受けた」が81.9%、「受けなかった」が17.1%となっている。

性別・年齢別にみると、「受けた」は男性30代と50代で9割を超え、「受けなかった」は男性70代以上と女性60代～70代で2割を超えていた。

<性別・年齢別 1年以内に健康診査を受けたか>



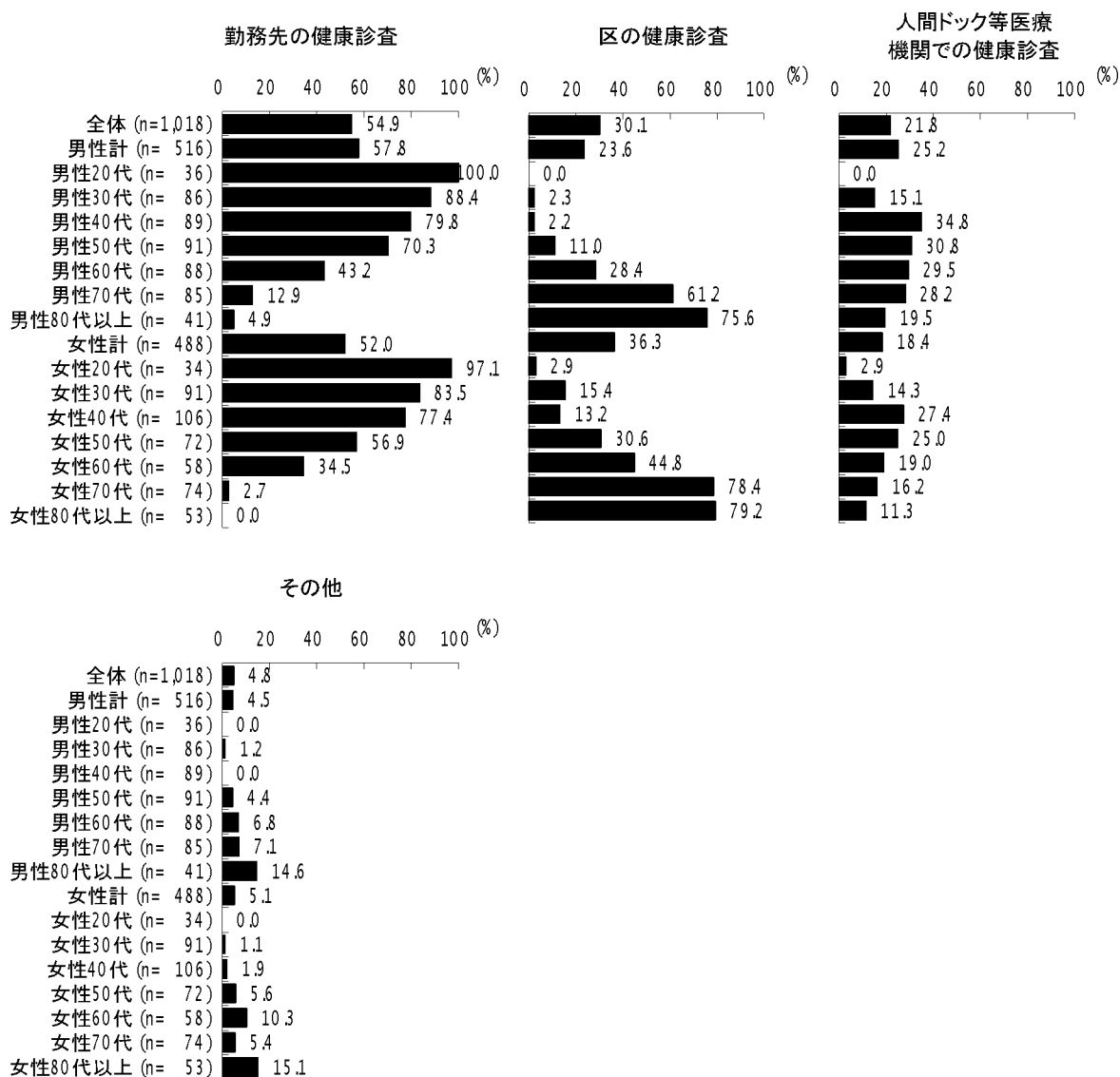
健康診査を受けた場所



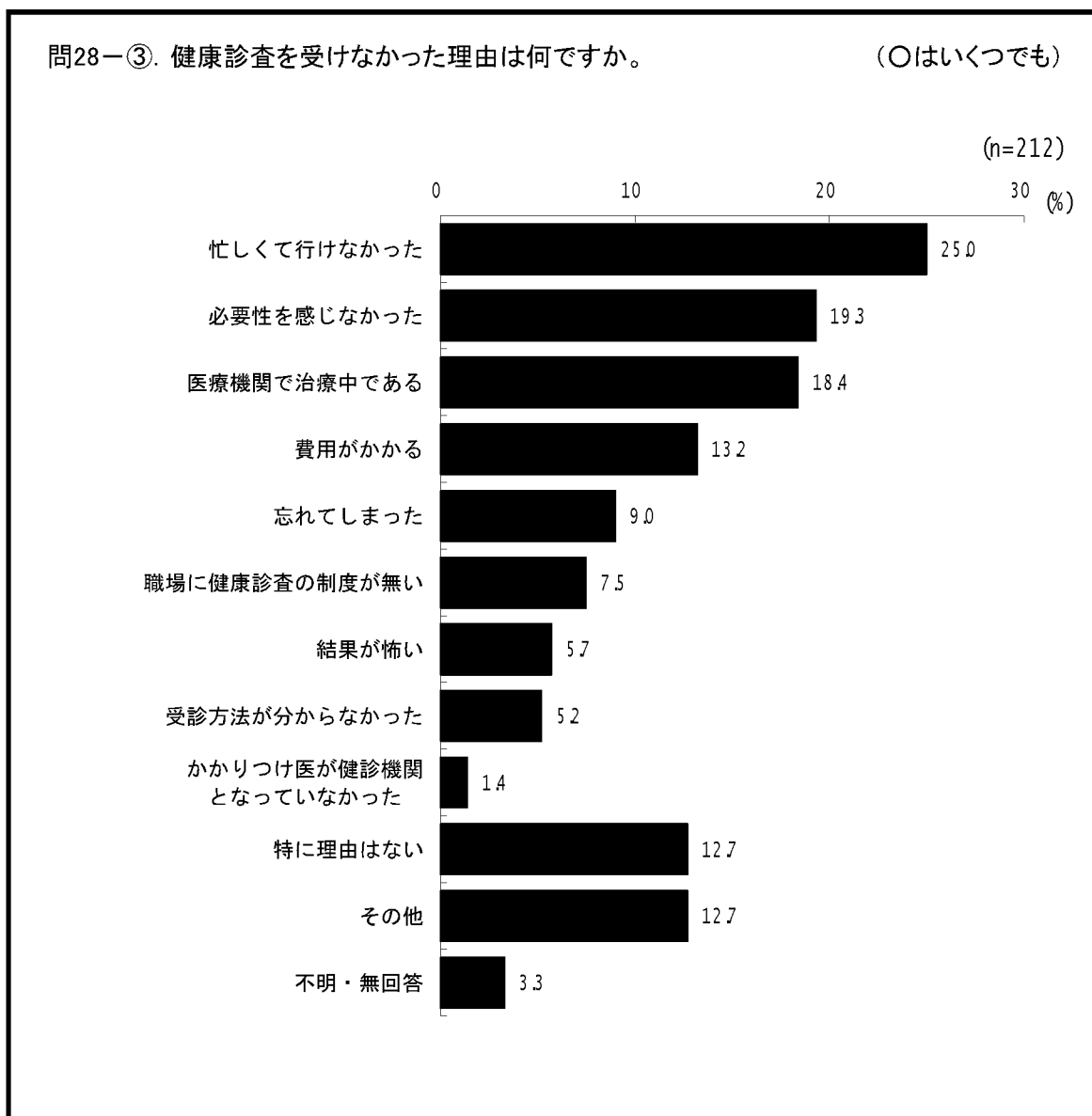
1年以内に健康診査を受けた人に、その場所をたずねたところ、「勤務先の健康診査」が54.9%と最も多く、次いで「区の健康診査」(30.1%)、「人間ドック等医療機関での健康診査」(21.8%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「勤務先の健康診査」は年齢が下がるほど多くなる傾向があり、男女とも20代で9割を超えている。「区の健康診査」は年齢が上がるほど多くなる傾向があり、男女とも70代以上で6割を超えている。

<性別・年齢別 健康診査を受けた場所>



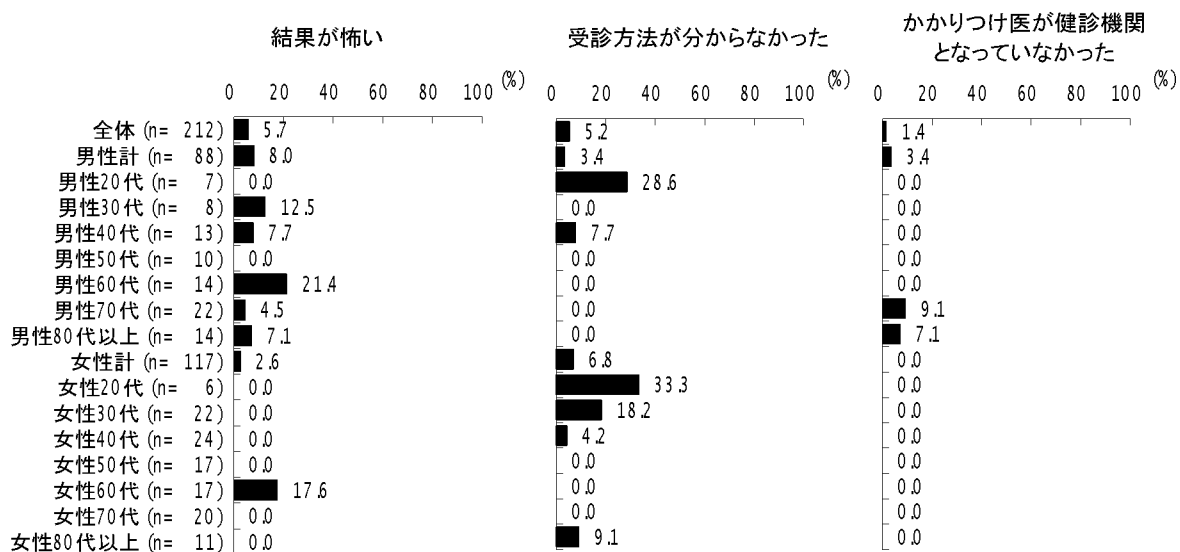
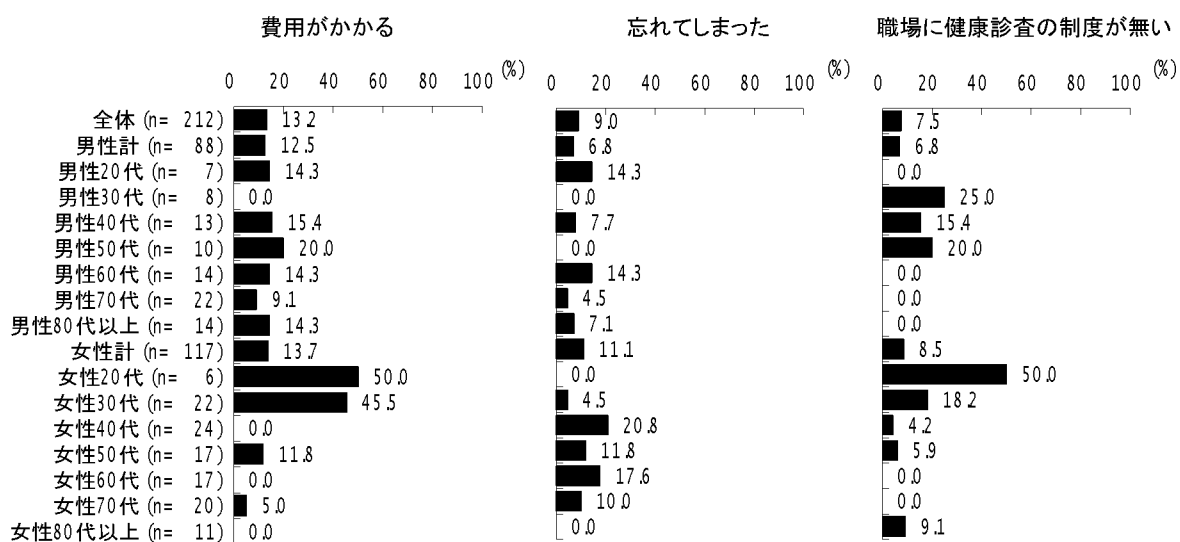
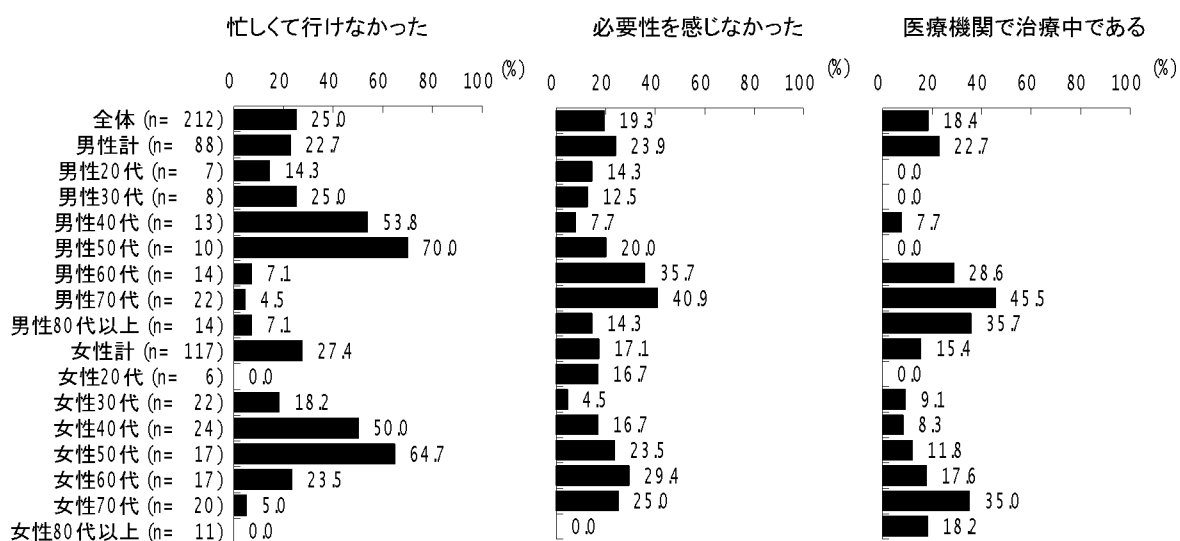
健康診査を受けなかった理由



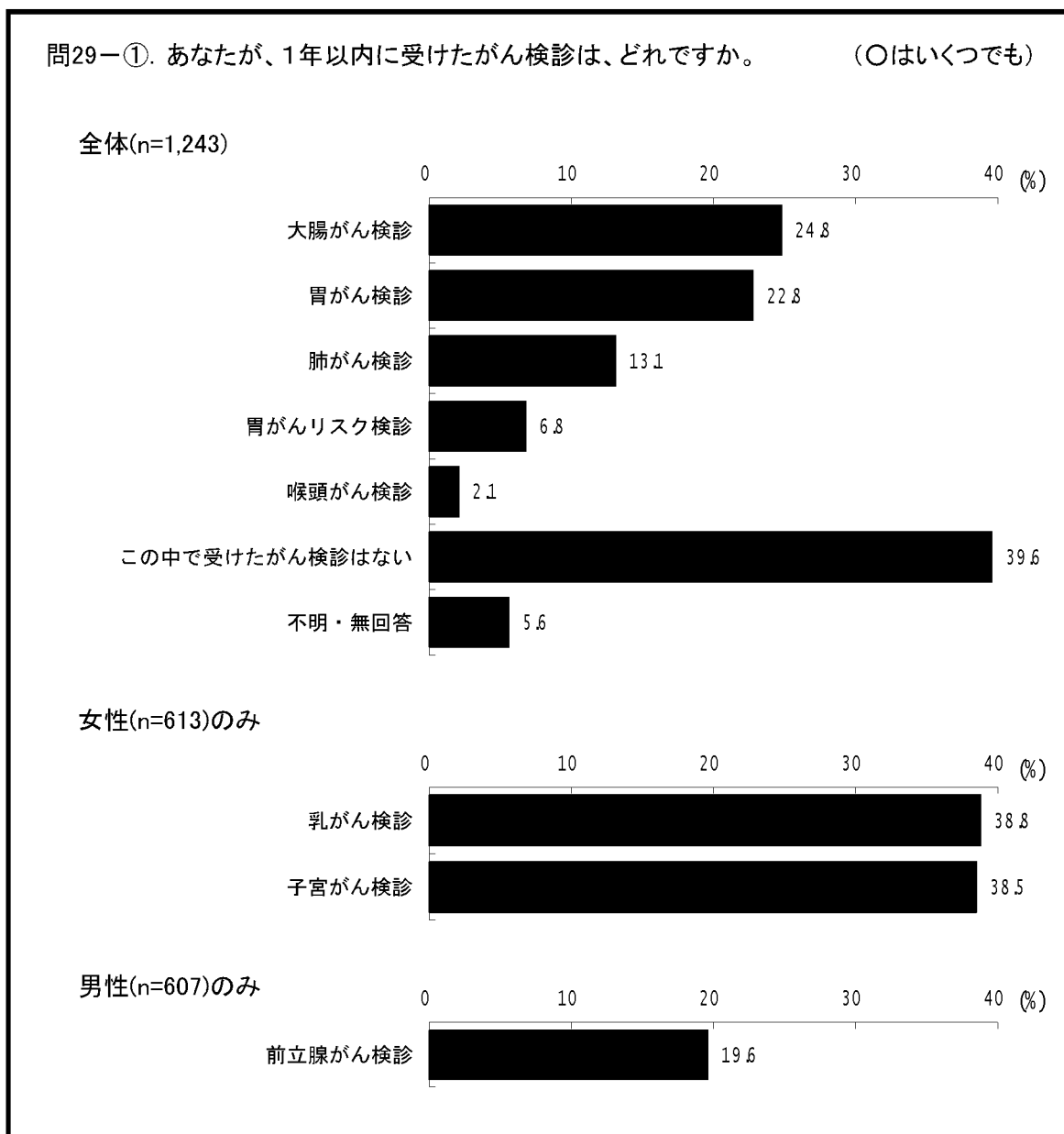
1年以内に健康診査を受けなかった人に、その理由をたずねたところ、「忙しくて行けなかった」が25.0%と最も多く、次いで「必要性を感じなかった」(19.3%)、「医療機関で治療中である」(18.4%)、「費用がかかる」(13.2%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「忙しくて行けなかった」は男女とも50代で6割を超えて多くなっている。「必要性を感じなかった」は男性60代～70代で3割を超え、他の性・年齢に比べて多くなっている。

<性別・年齢別 健康診査を受けなかった理由(上位9項目)>



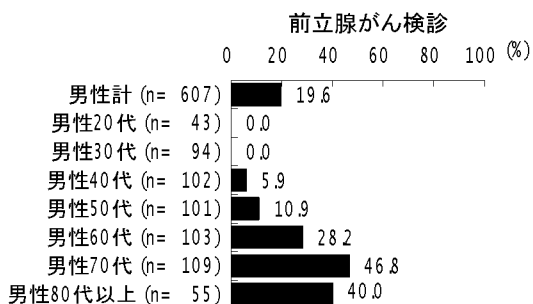
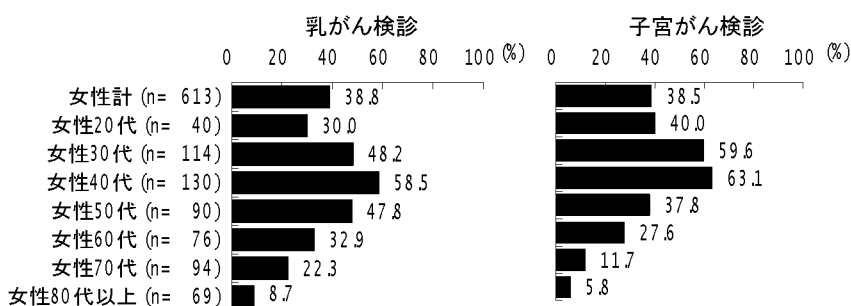
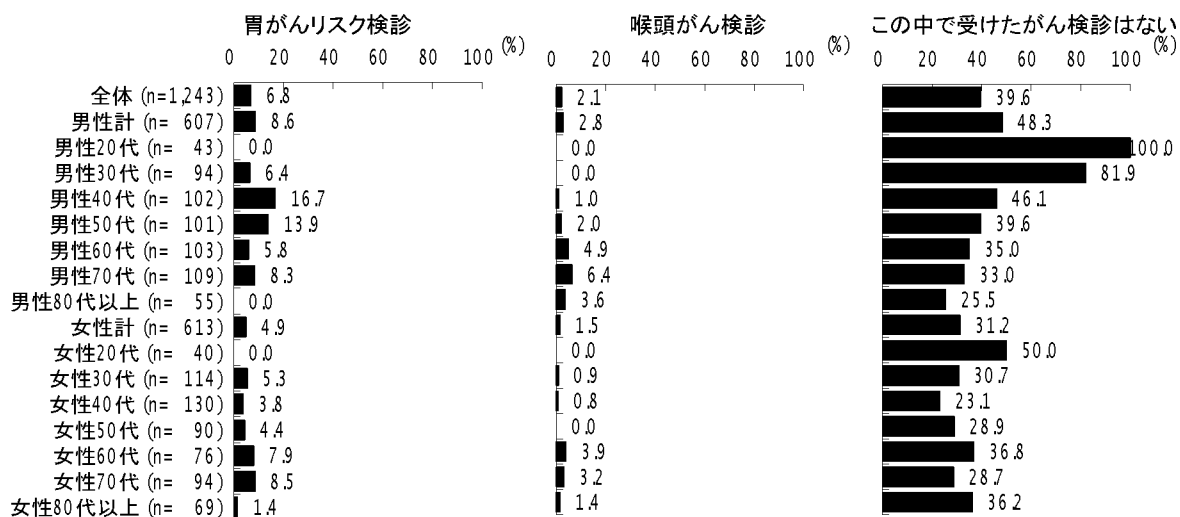
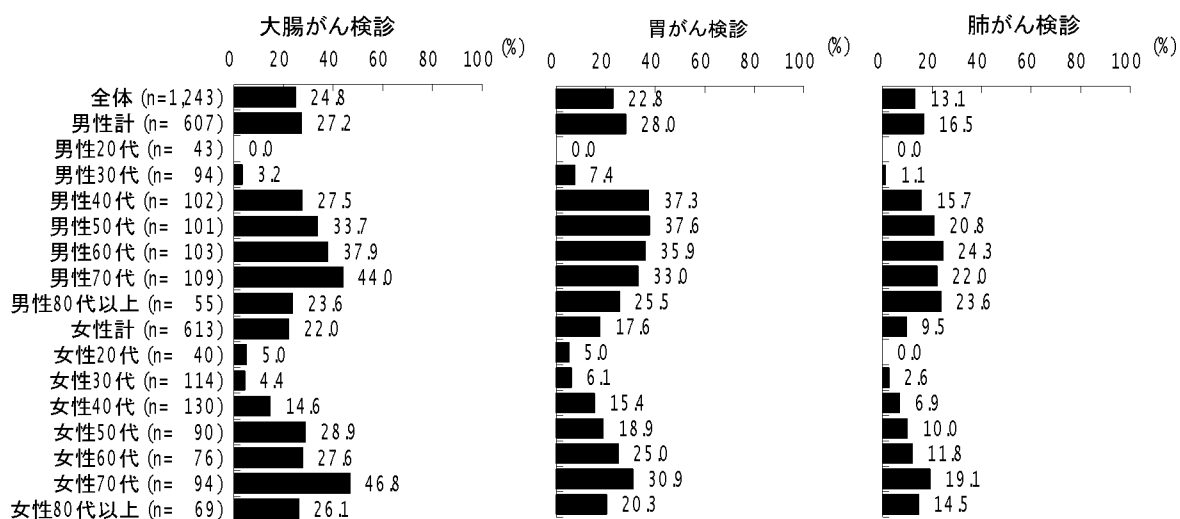
1年以内に受けたがん検診の種類



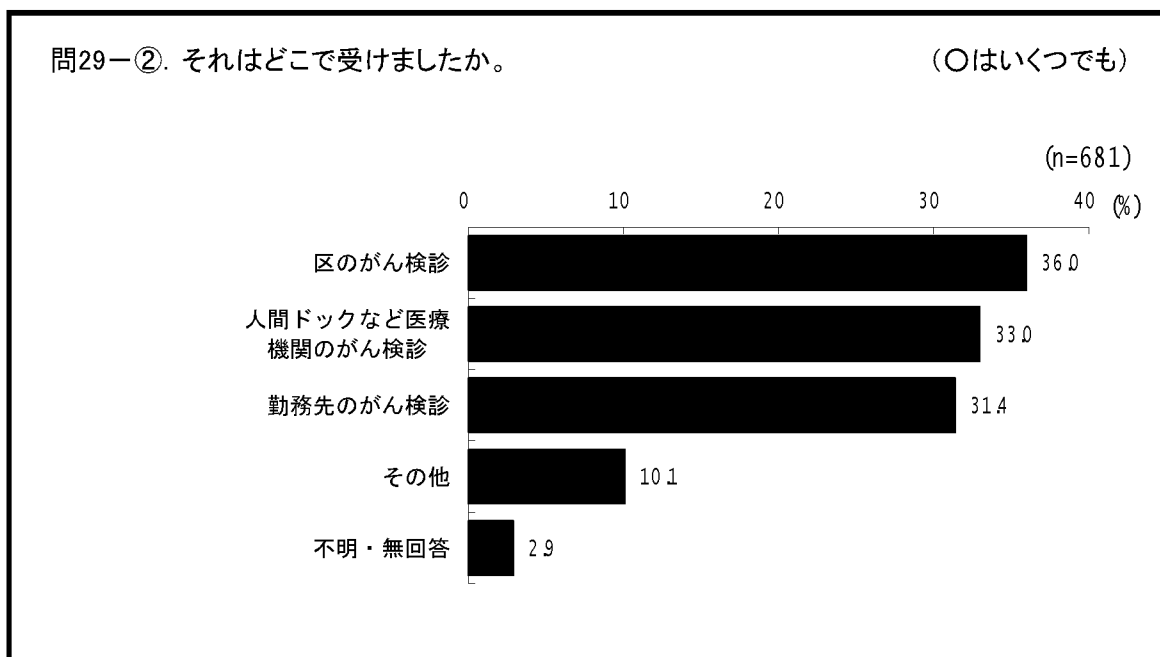
1年以内に受けたがん検診の種類は、全体で見ると、「大腸がん検診」が24.8%と最も多く、次いで「胃がん検診」(22.8%)の順が続いている。女性のみで見ると、「乳がん検診」が38.8%、「子宮がん検診」が38.5%となっている。

「胃がん検診」は男性40代～70代、女性70代で3割を超え、「乳がん検診」は女性30代～女性50代で4割を超えて、他の性・年齢と比較してそれぞれ多くなっている。

<性別・年齢別 1年以内に受けたがん検診の種類>



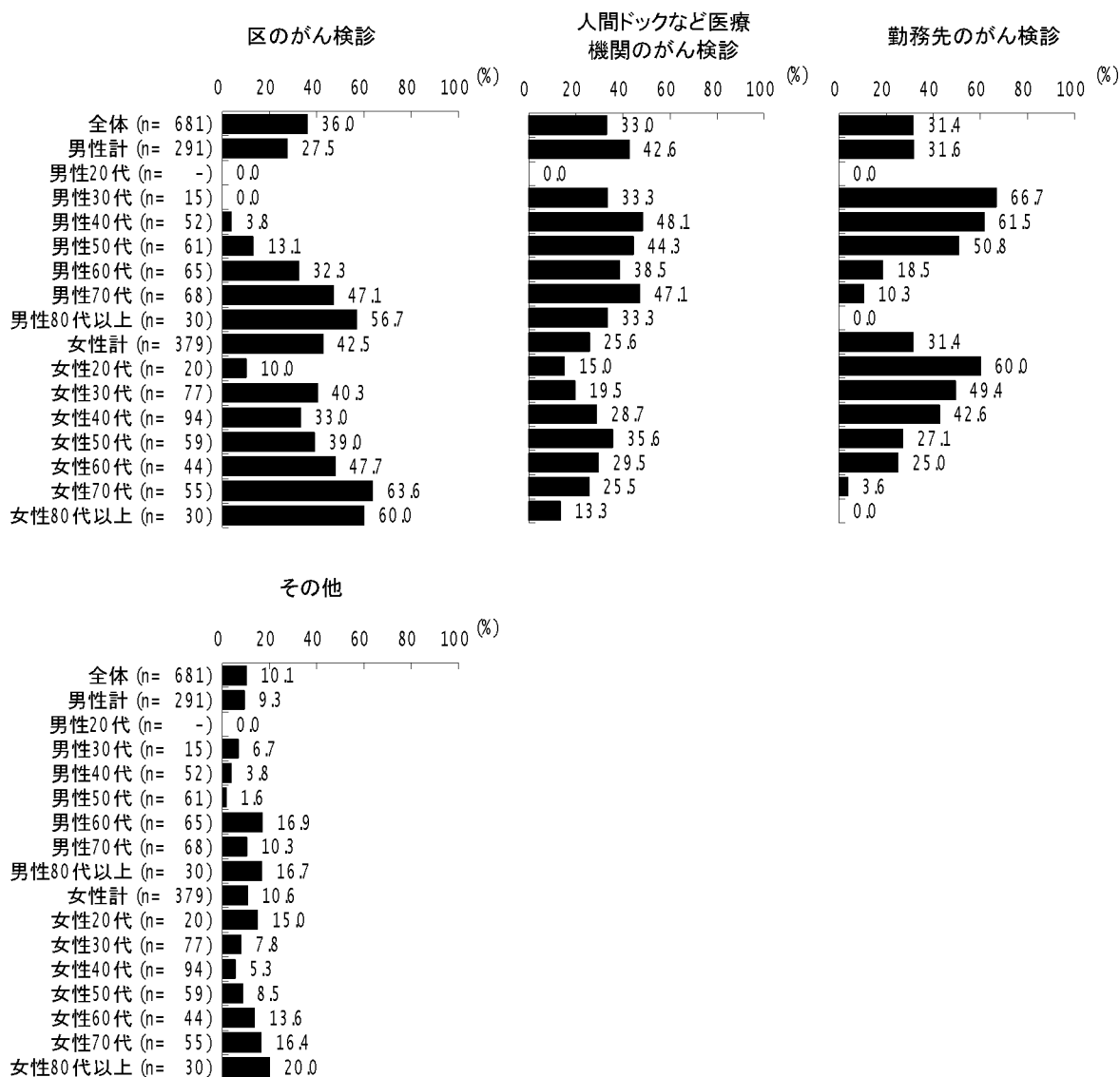
がん検診を受けた場所



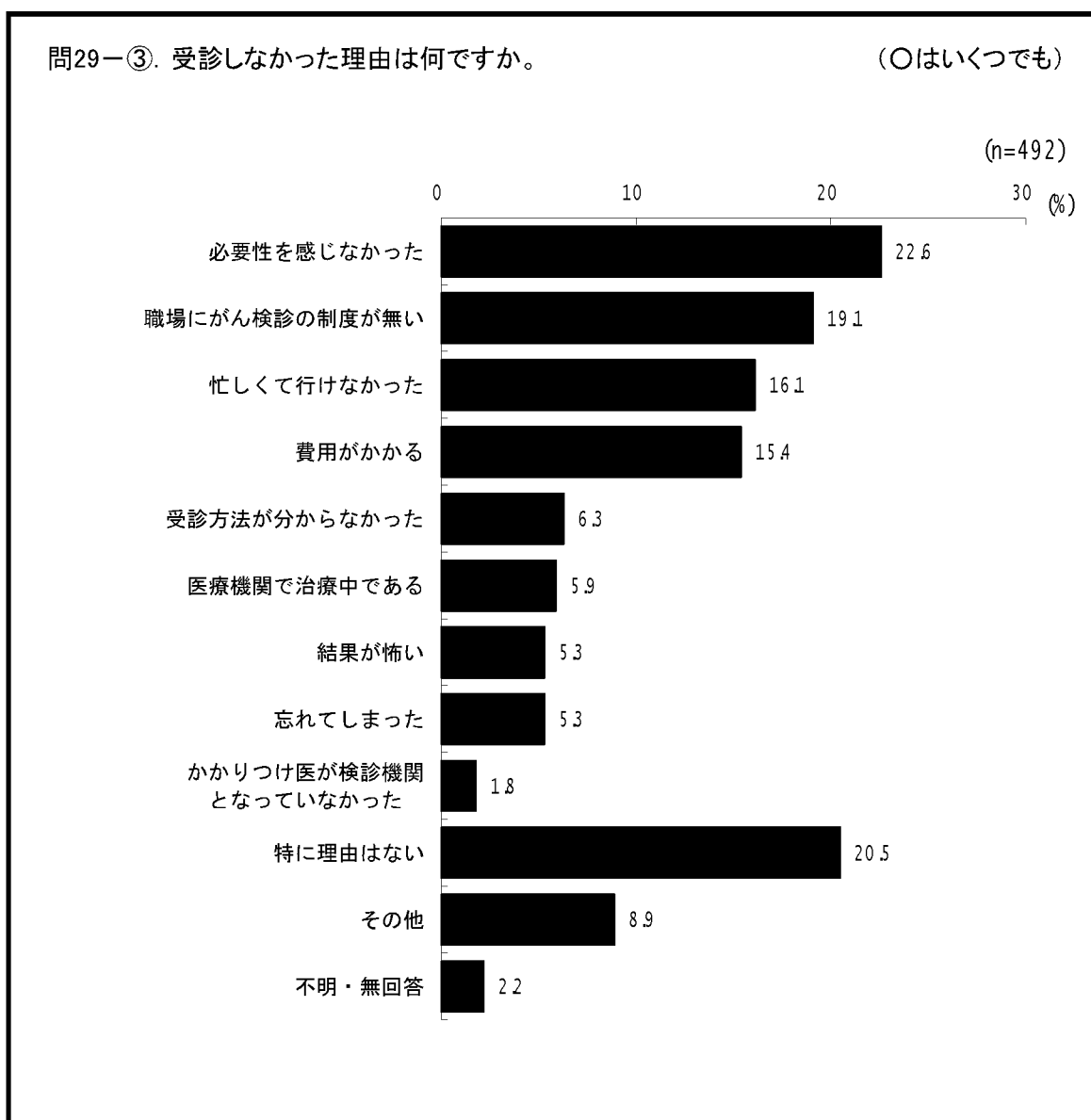
1年以内になん検診を受けた人に、その場所をたずねたところ、「区のがん検診」が36.0%で最も多く、次いで「人間ドックなど医療機関のがん検診」(33.0%)、「勤務先のがん検診」(31.4%)の順に続いている。

性別・年齢別にみると、「区のがん検診」は、女性70代以上で6割以上と多くなっている。「人間ドックなど医療機関のがん検診」は、男性の40代～50代と70代で4割を超え、他の性・年齢と比較して多くなっている。

<性別・年齢別 がん検診を受けた場所>



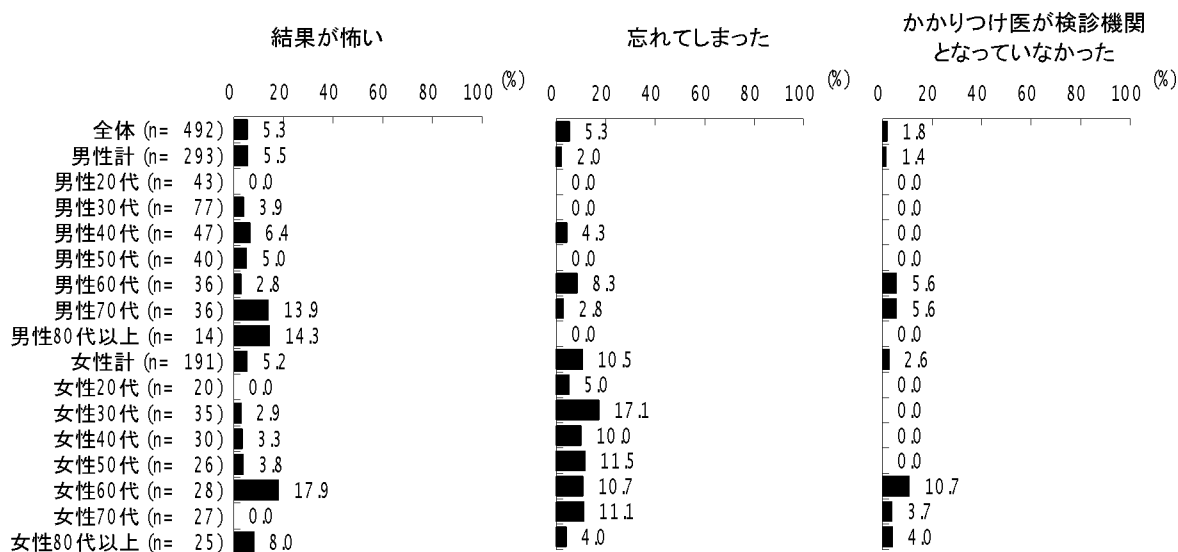
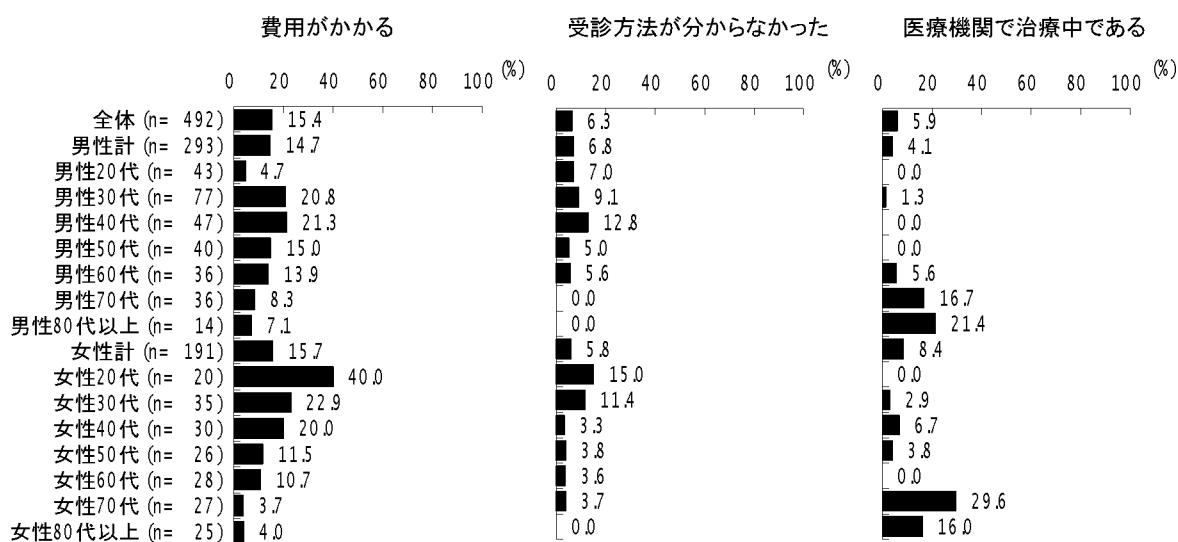
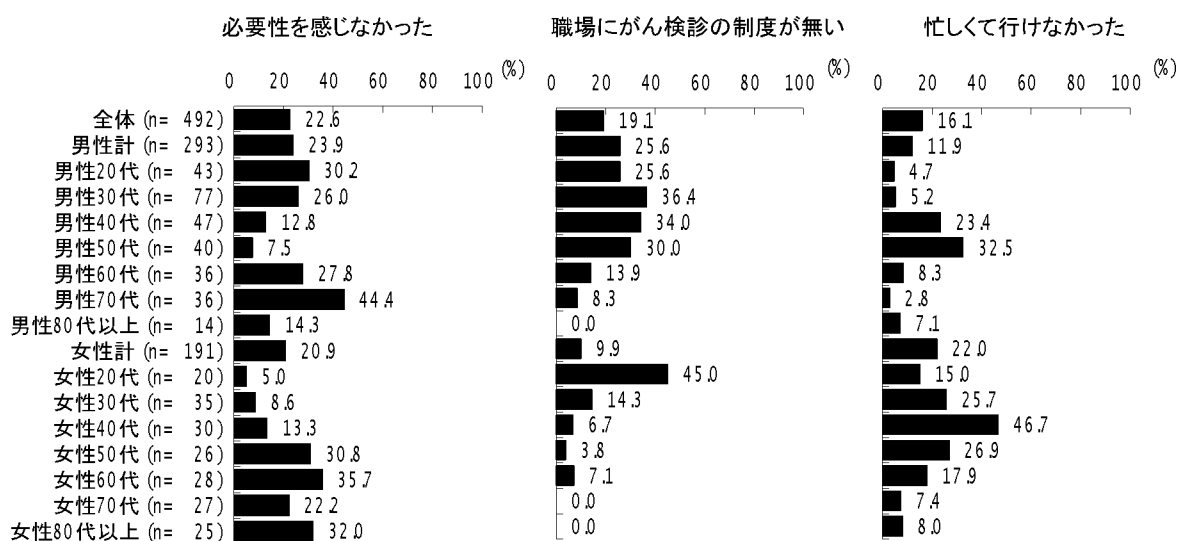
がん検診を受診しなかった理由



1年以内にごがん検診を受けていない人に、その理由をたずねたところ、「必要性を感じなかった」が22.6%で最も多く、次いで「特に理由はない」(20.5%)、「職場にごがん検診の制度が無い」(19.1%)、「忙しくて行けなかった」(16.1%)、「費用がかかる」(15.4%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「必要性を感じなかった」は、男性70代で4割を超え多くなっている。

<性別・年齢別 がん検診を受診しなかった理由(上位9項目)>



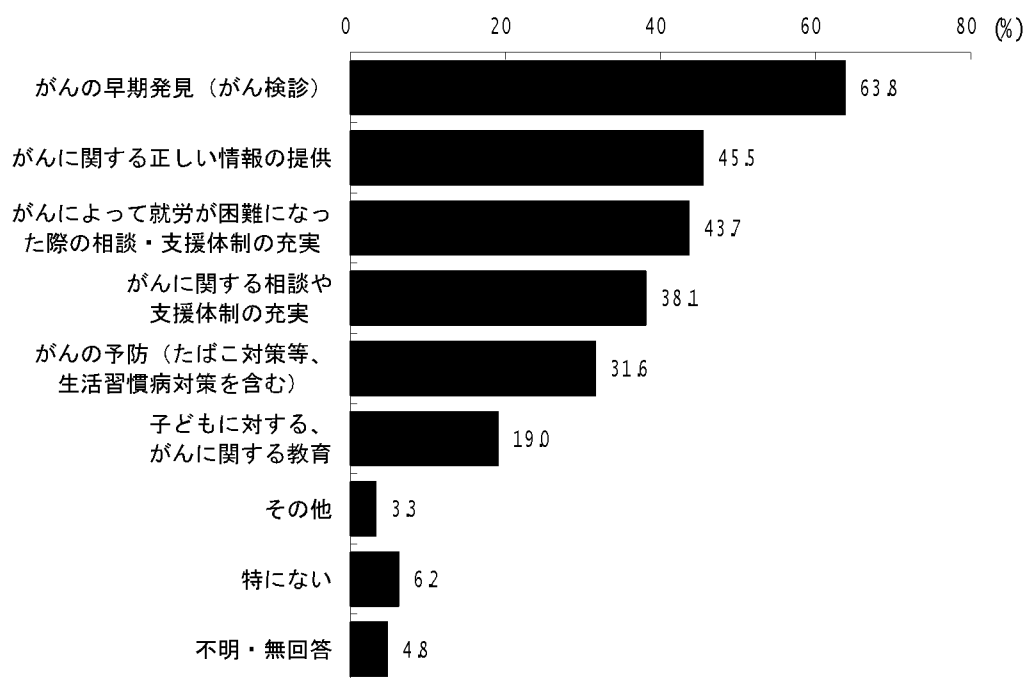
「がん」について区として力を入れてほしいこと

問30. 我が国では、3人に1人が「がん」で死亡し、「がん」は身近な疾患になっています。

あなたは、今後、どのような対策、取り組みを区として力を入れてほしいと思いますか。

(○はいくつでも)

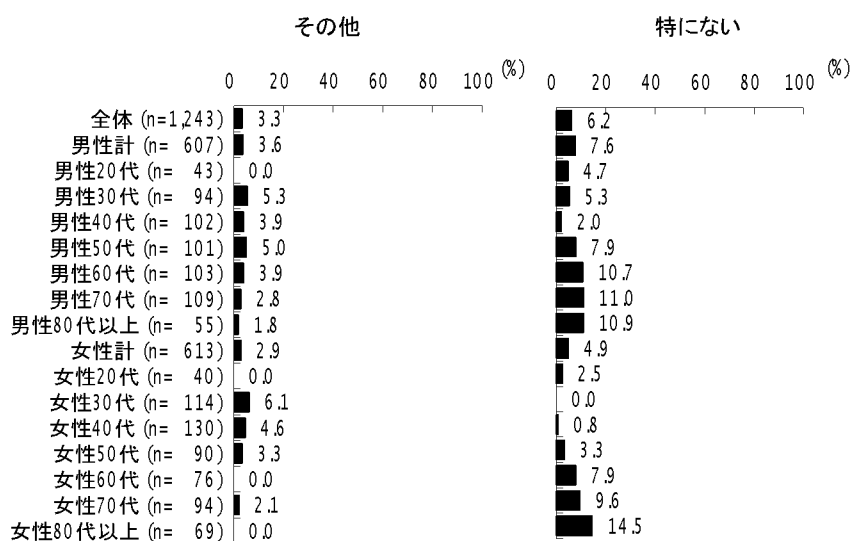
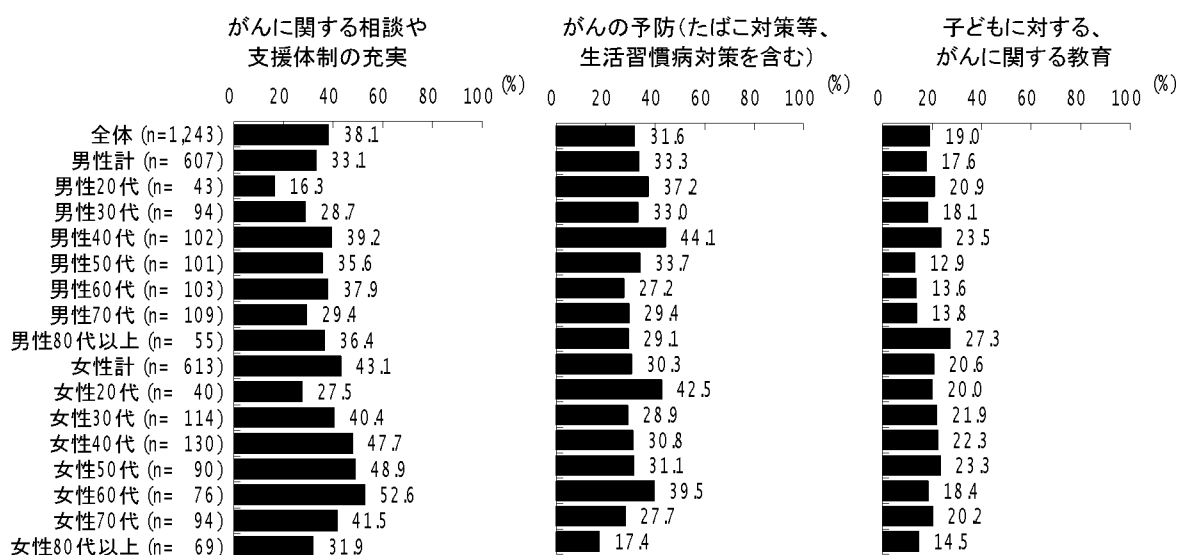
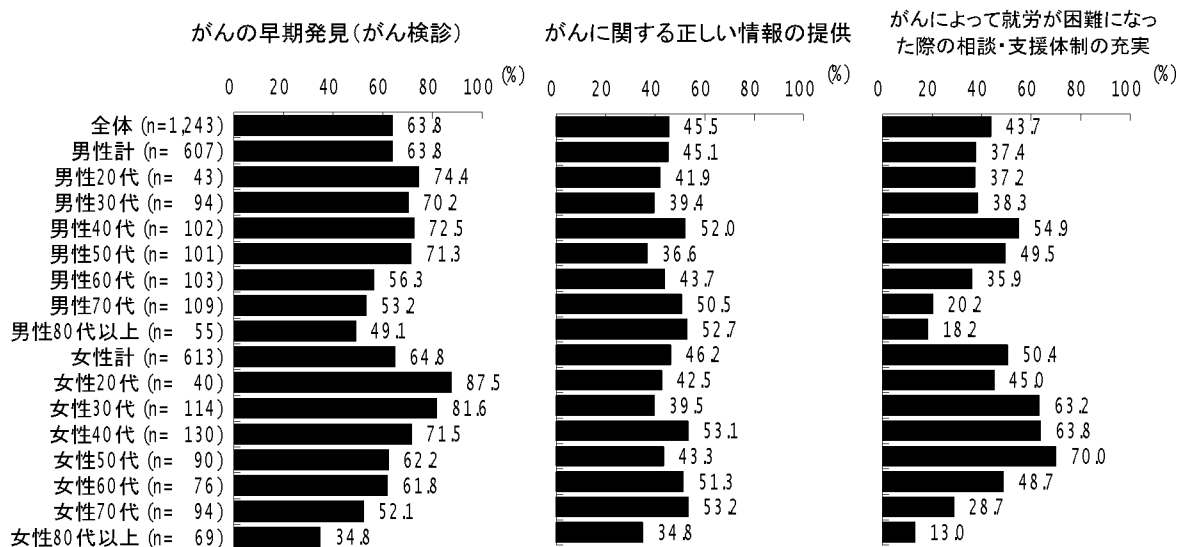
(n=1,243)



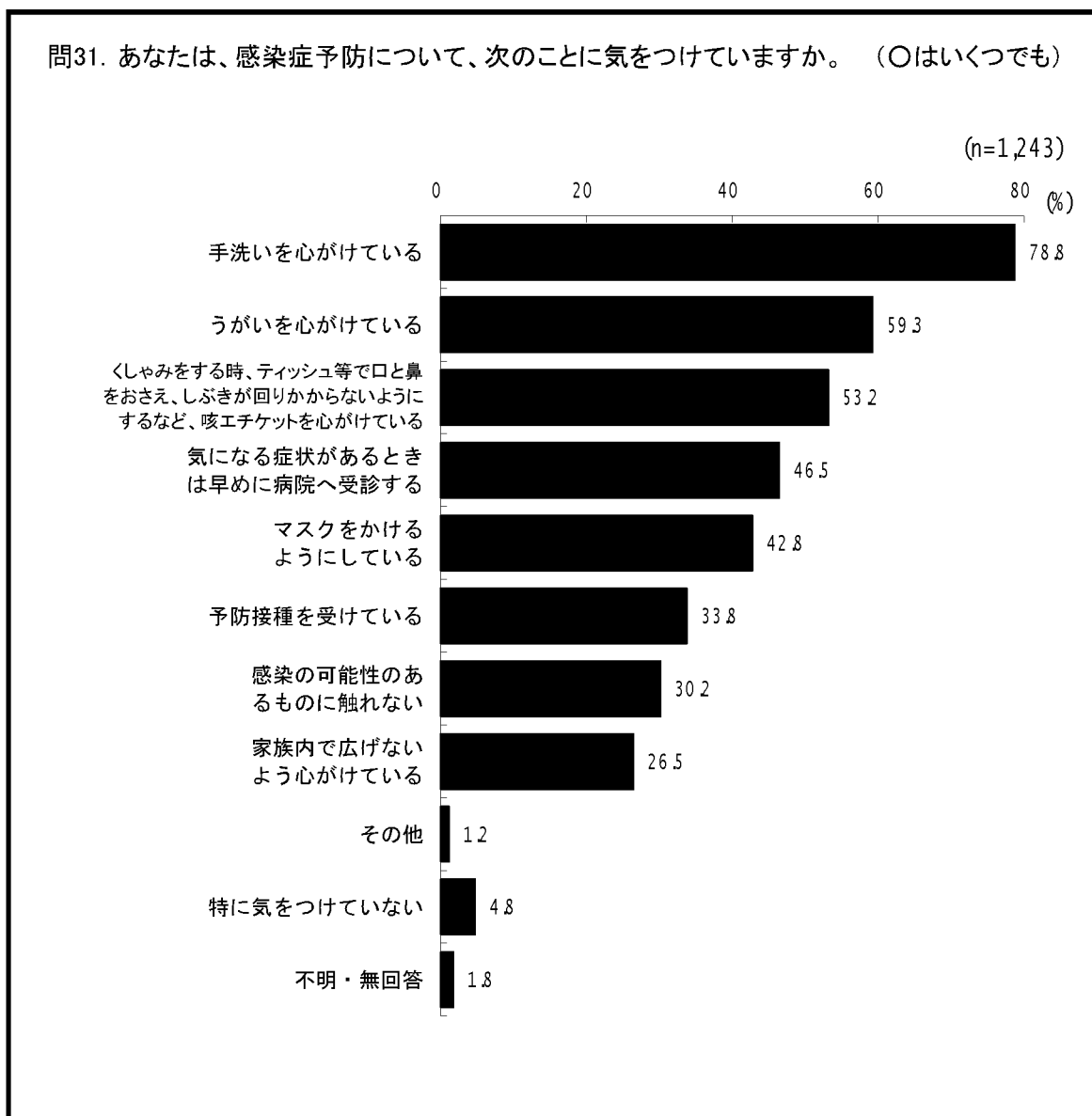
「がん」について区として力を入れてほしいことは、「がんの早期発見 (がん検診)」が63.8%と最も多く、次いで「がんに関する正しい情報の提供」(45.5%)、「がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の充実」(43.7%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「がんの早期発見 (がん検診)」は年齢が下がるほど多くなる傾向があり、女性の20代～30代で8割を超え多くなっている。「がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の充実」は女性30～50代で6割を超え、他の性・年齢と比べて多くなっている。

<性別・年齢別 「がん」について区として力を入れてほしいこと>



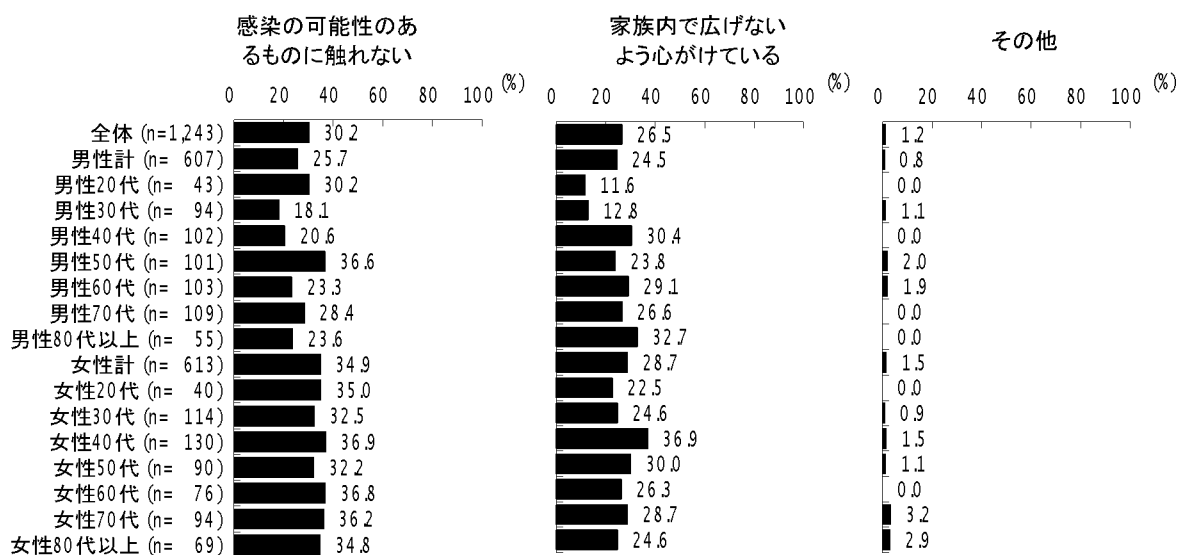
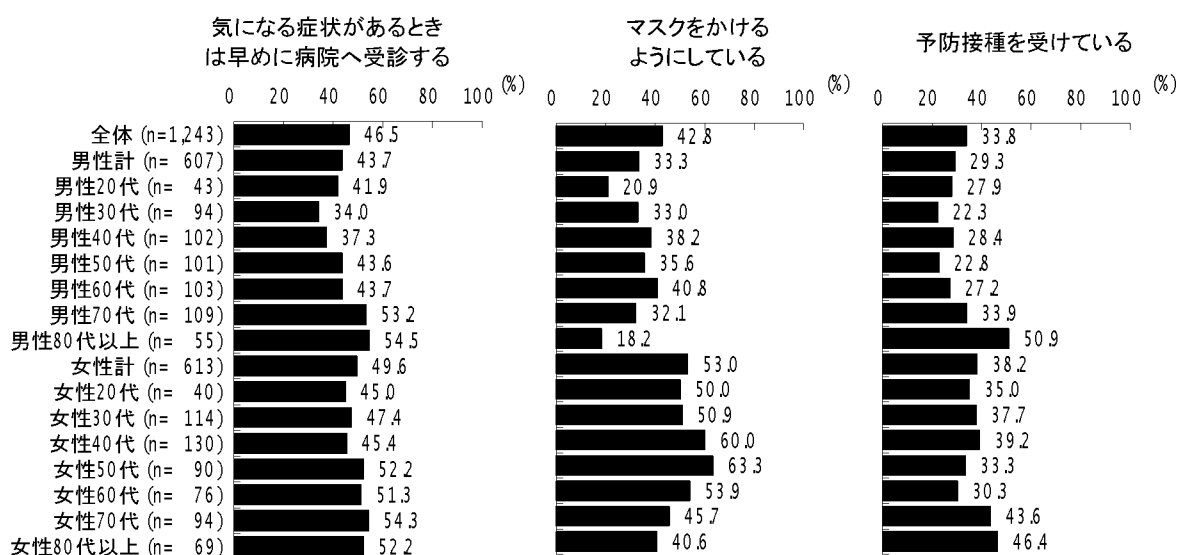
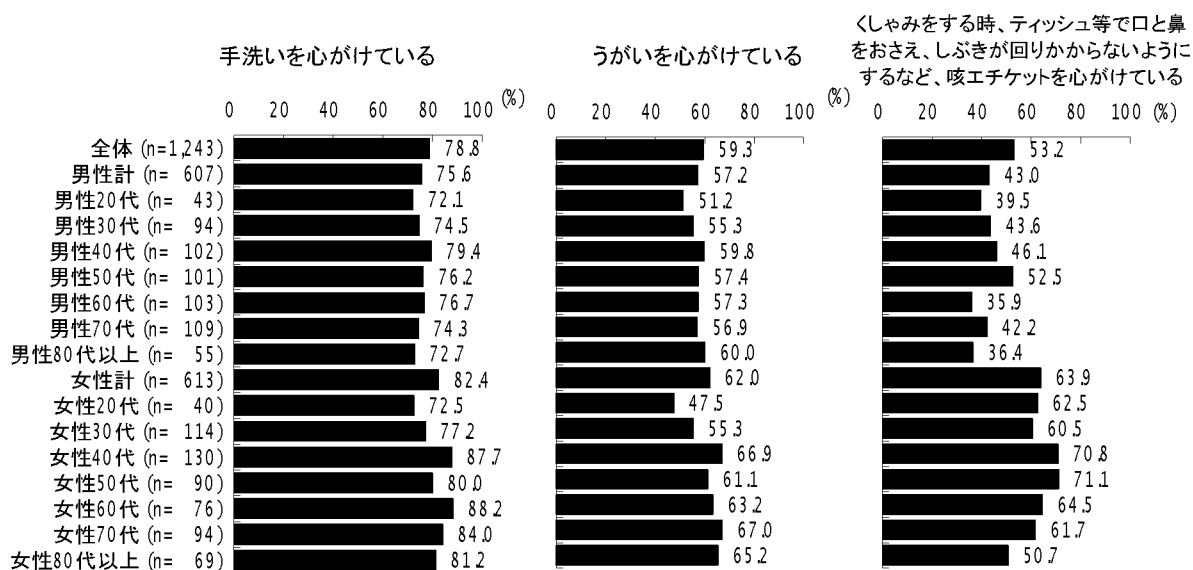
感染症予防について気をつけていること



感染症予防について気をつけていることは、「手洗いを心がけている」が78.8%と最も多く、次いで「うがいを心がけている」（59.3%）、「くしゃみをする時、ティッシュ等で口と鼻をおさえ、しぶきが回りかからないようにするなど、咳エチケットを心がけている」（53.2%）の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「手洗いを心がけている」はすべての性・年齢で7割を超えており、なかでも女性40代以上では8割を超えて多くなっている。「うがいを心がけている」は女性40代以上で6割を上回り、他の性・年齢と比較して多くなっている。

<性別・年齢別 感染症予防について気をつけていること(上位9項目)>



(10) 医療について

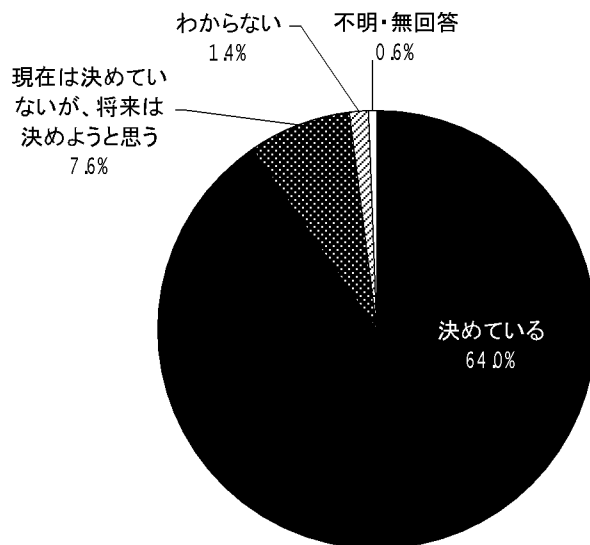
かかりつけ病院または診療所を決めているか

問32. あなたの「かかりつけ医療機関[※]」について、下記から選んでください。

※) かかりつけ医療機関とは、体調が悪い時などにまず相談する病院、診療所、歯科医院、薬局等のことです。

①あなたは、かかりつけ病院または診療所を決めていますか。 (○は1つ)

(n=1,243)

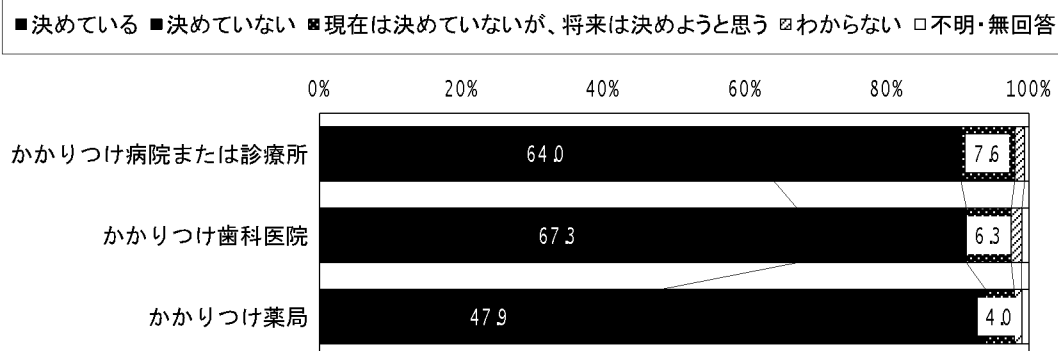


かかりつけ病院または診療所を決めているかたずねたところ、「決めている」が64.0%と最も多く、次いで「決めていない」（26.4%）、「現在は決めていないが、将来は決めようと思う」（7.6%）の順が続いている。

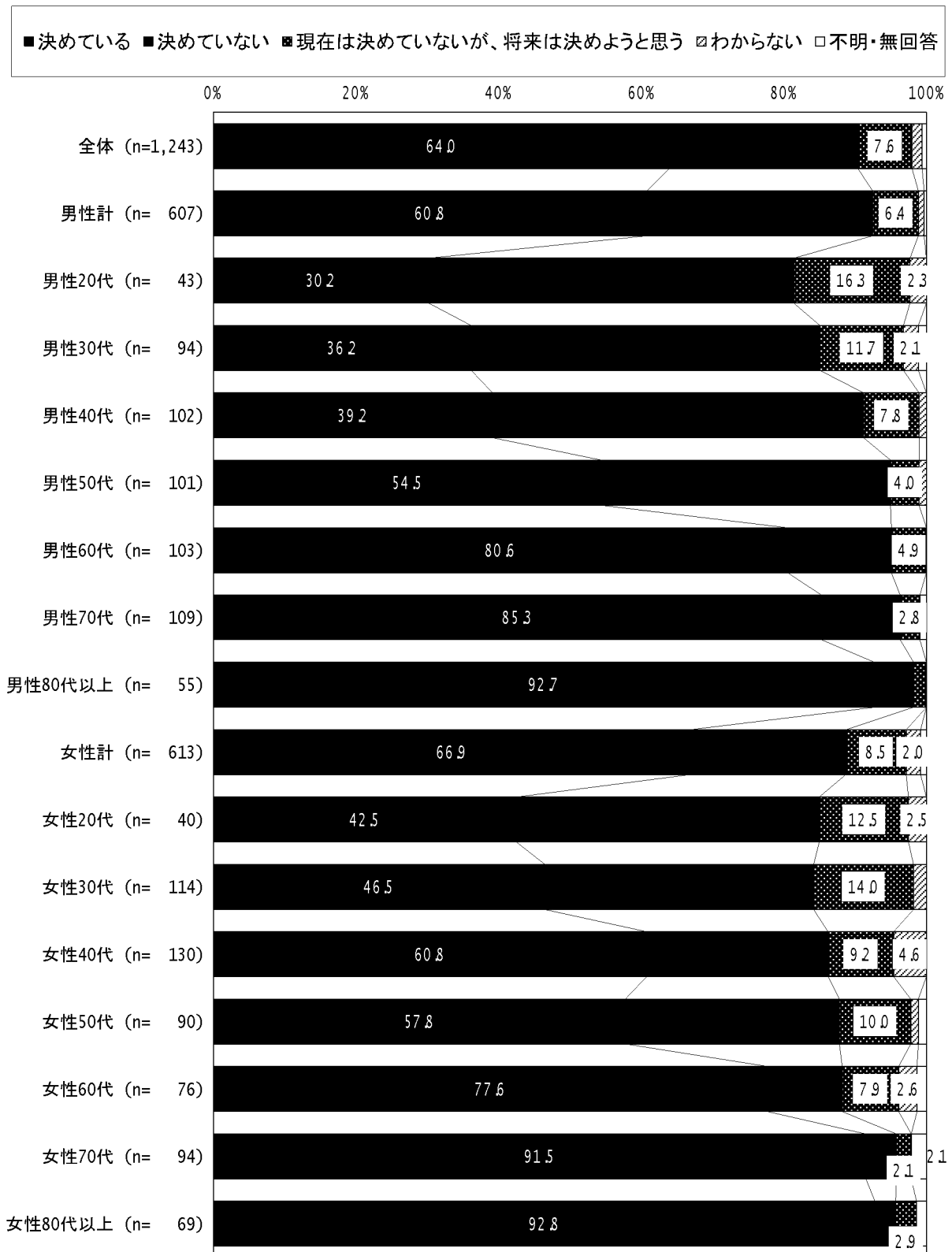
性別・年齢別にみると、「決めている」は年齢が上がるほど多くなる傾向があり、男性80代以上と女性70代以上で9割を超えている。

<参考> かかりつけ医療機関の状況比較

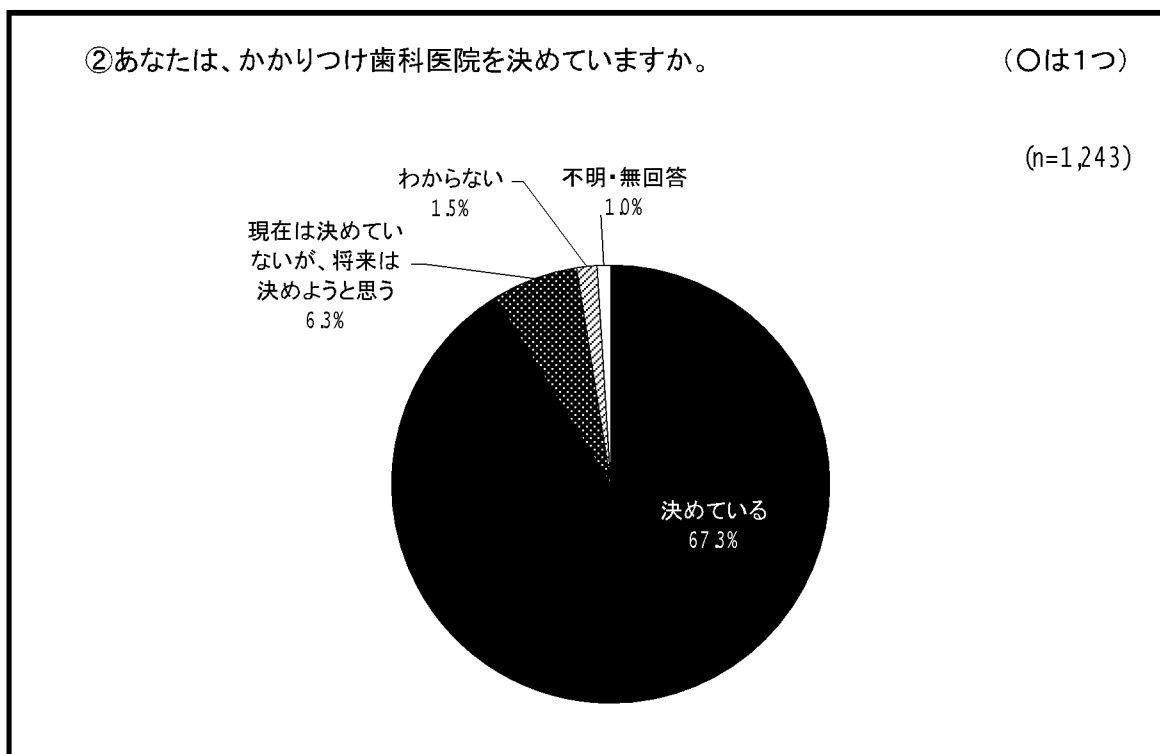
(n=1,243)



<性別・年齢別 かかりつけ病院または診療所を決めているか>



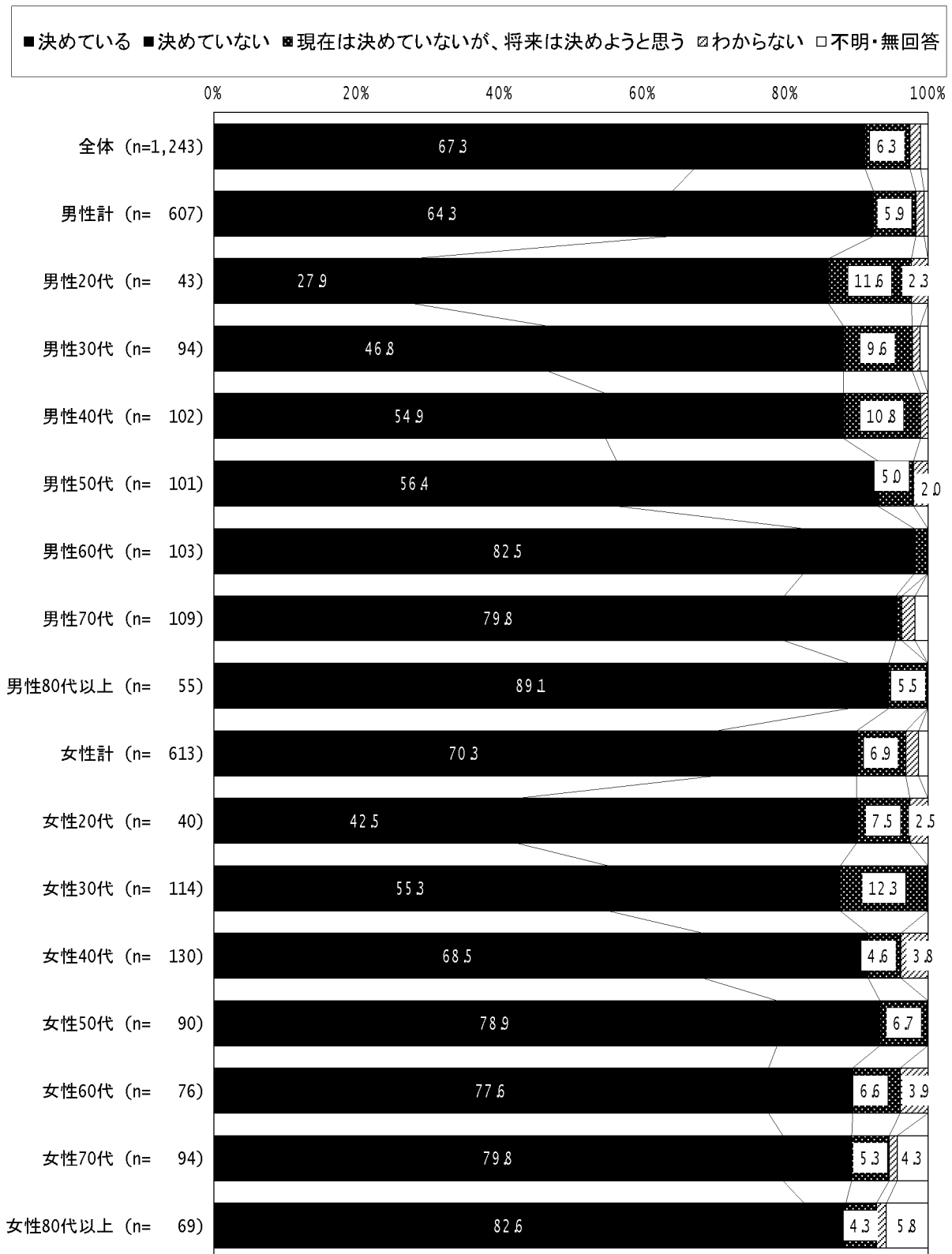
かかりつけ歯科医院を決めているか



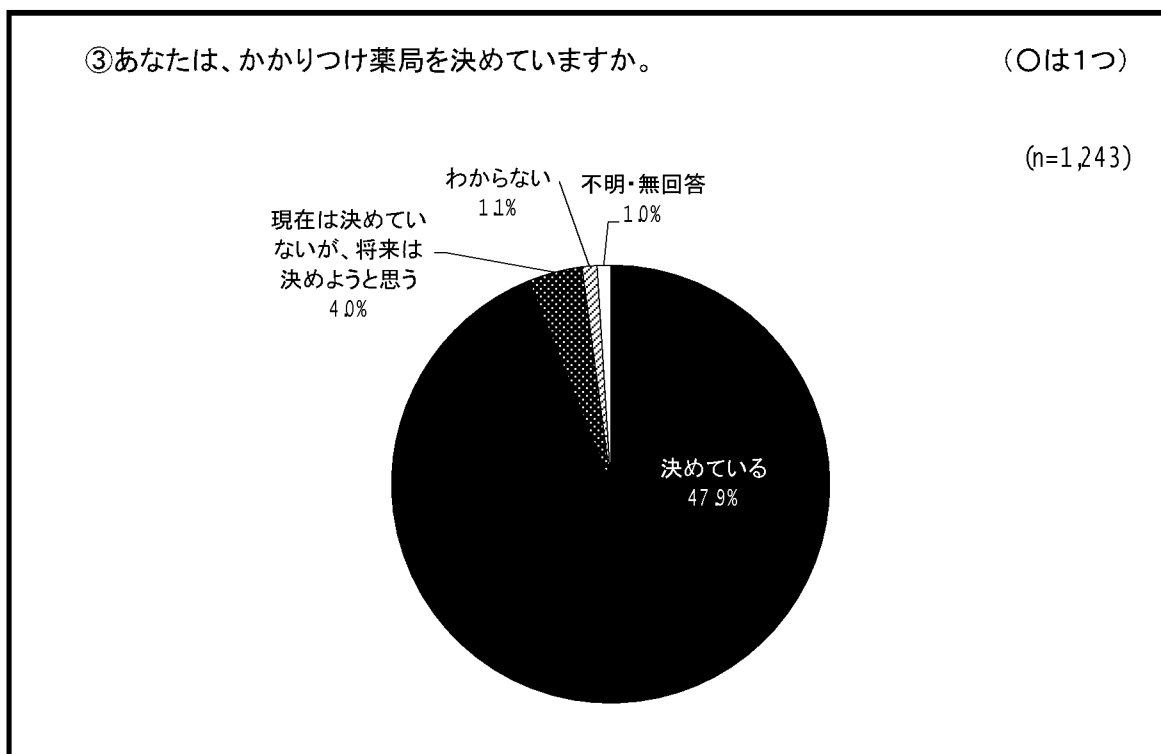
かかりつけ歯科医院を決めているかたずねたところ、「決めている」が67.3%と最も多く、次いで「決めていない」(23.9%)、「現在は決めていないが、将来は決めようと思う」(6.3%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「決めている」は年齢が上がるほど多くなる傾向があり、男性60代と80代以上、女性80代以上で8割を超えている。

<性別・年齢別 かかりつけ歯科医院を決めているか>



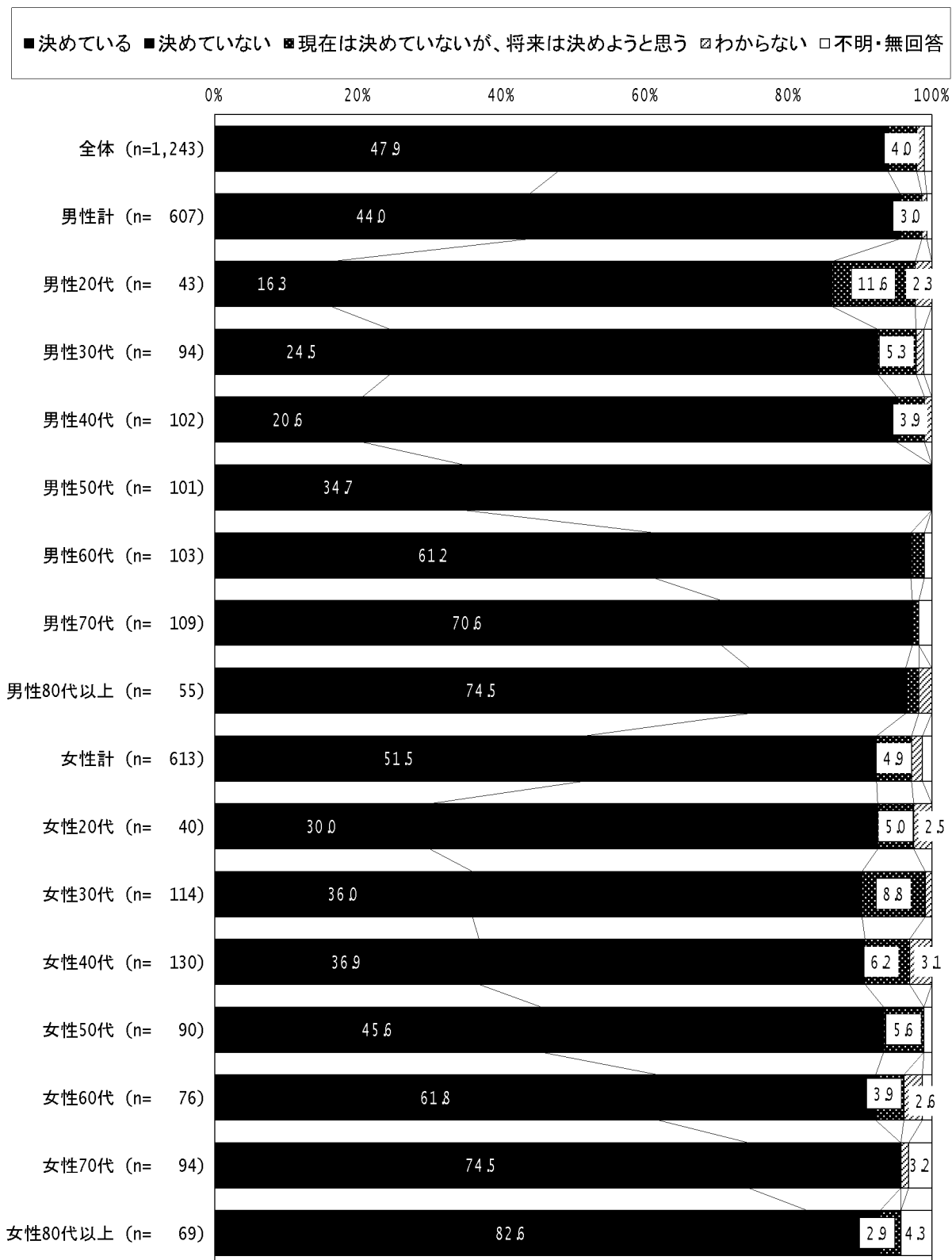
かかりつけ薬局を決めているか



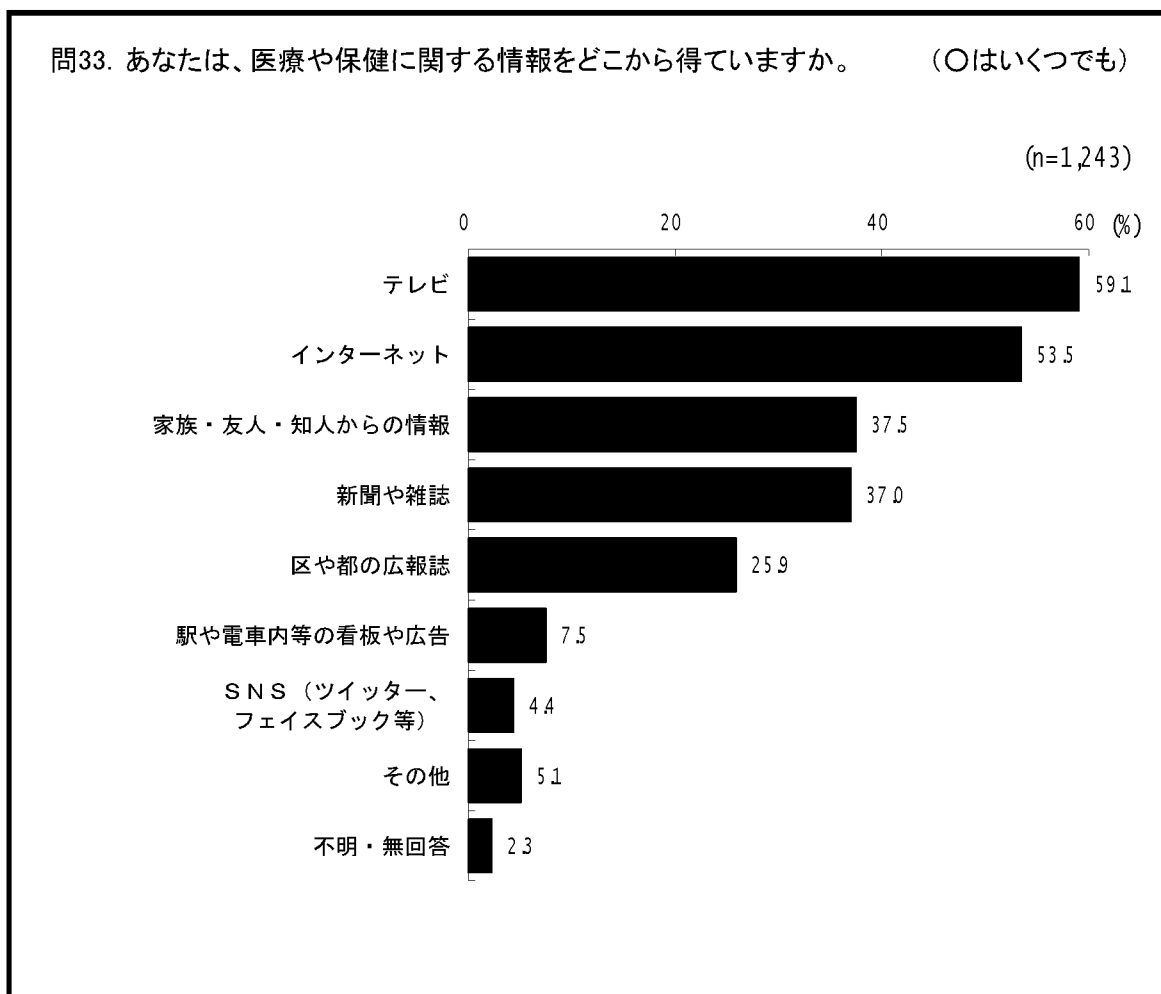
かかりつけ薬局医院を決めているかたずねたところ、「決めている」が47.9%と最も多く、次いで「決めていない」(45.9%)、「現在は決めていないが、将来は決めようと思う」(4.0%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「決めている」は年齢が上がるほど多くなる傾向があり、男女とも70代以上で7割を超えている。

<性別・年齢別 かかりつけ薬局を決めているか>



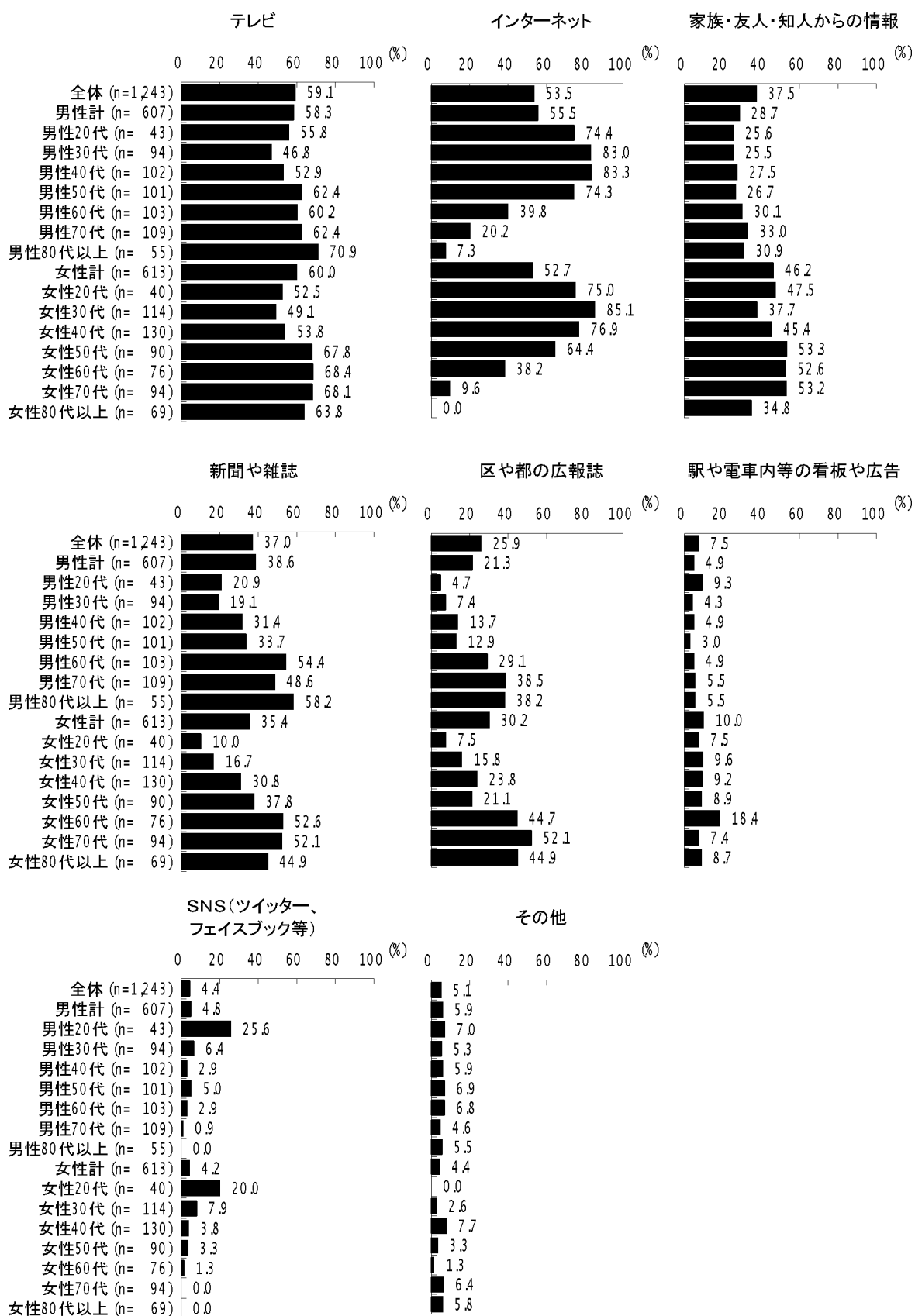
医療や保健に関する情報の入手経路



医療や保健に関する情報の入手経路は、「テレビ」が59.1%と最も多く、次いで「インターネット」(53.5%)、「家族・友人・知人からの情報」(37.5%)、「新聞や雑誌」(37.0%)の順に続いている。

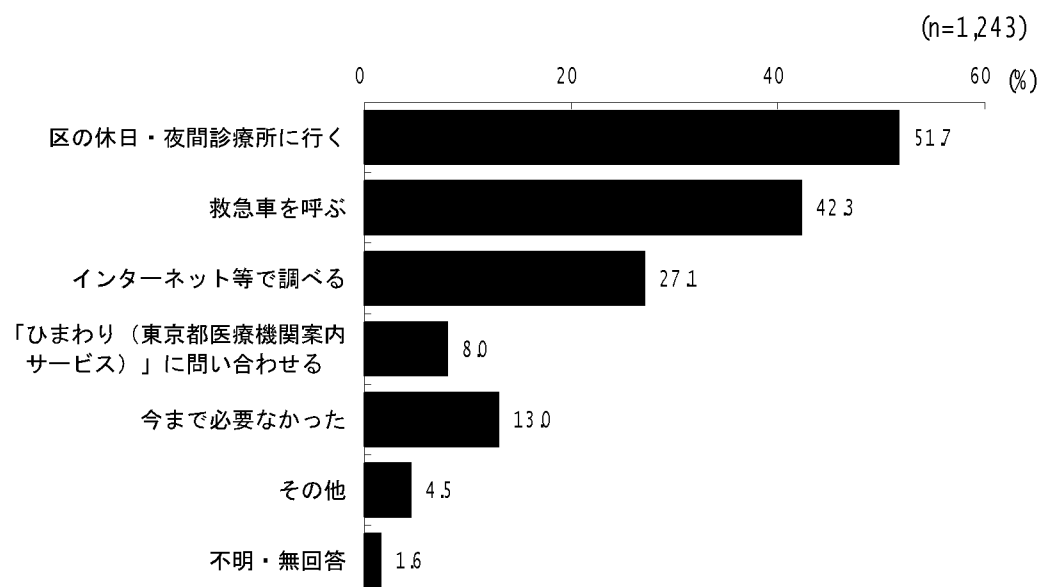
性別・年齢別にみると、「テレビ」は男性80代以上で7割を超え多くなっている。「インターネット」は男性30代~40代、女性30代で8割を超え多くなっている一方、男性80代以上と女性70代以上で1割を下回っている。

<性別・年齢別 医療や保健に関する情報の入手経路>



休日や夜間に医療機関を受診する時の対応方法

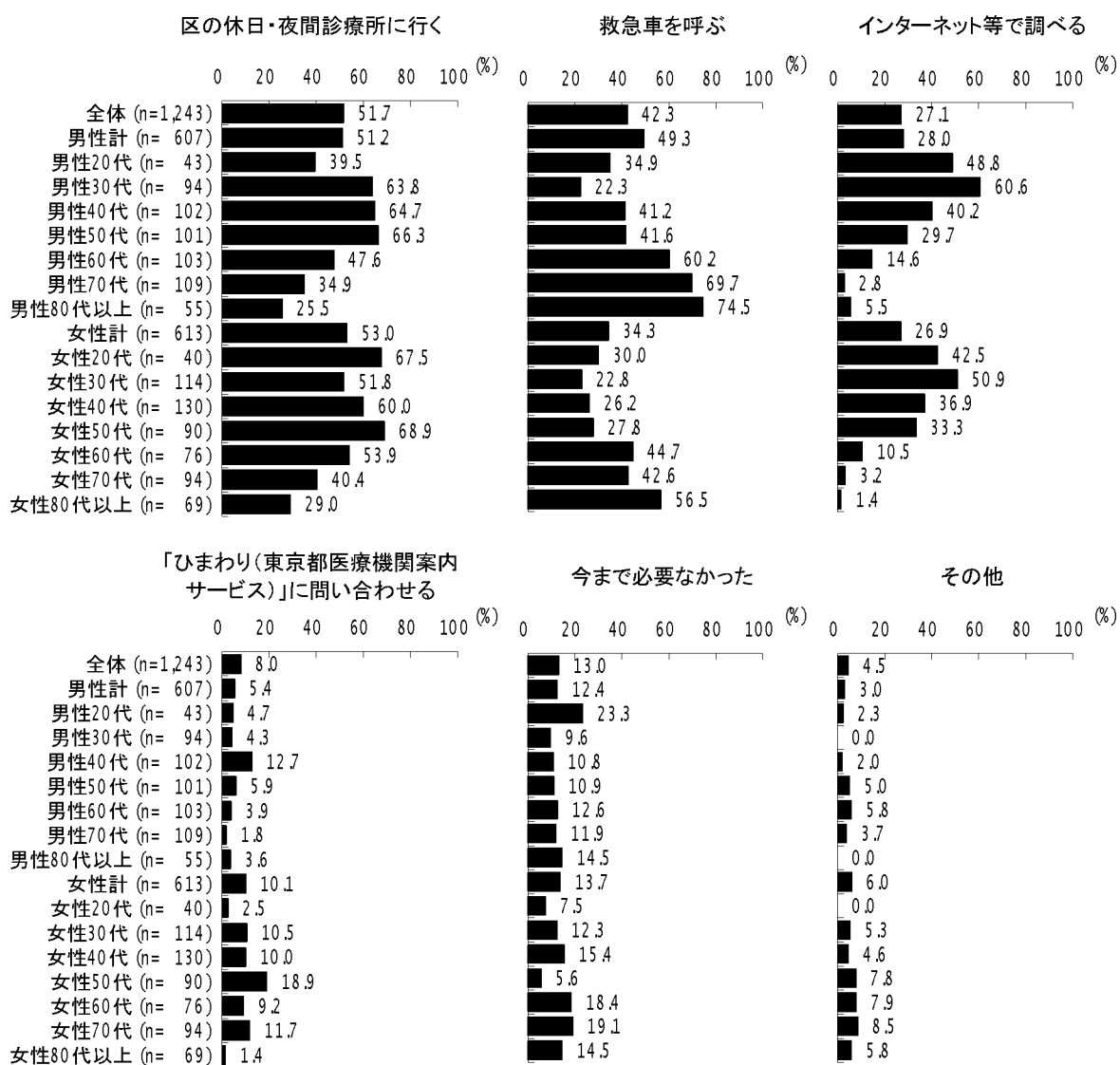
問34. あなたやあなたの家族が、休日や夜間に急に具合が悪くなり、医療機関を受診する時は、どのようにしますか。(〇はいくつでも)



休日や夜間に医療機関を受診する時の対応方法は、「区の休日・夜間診療所に行く」が51.7%と最も多く、次いで「救急車を呼ぶ」（42.3%）、「インターネット等で調べる」（27.1%）の順が続いている。

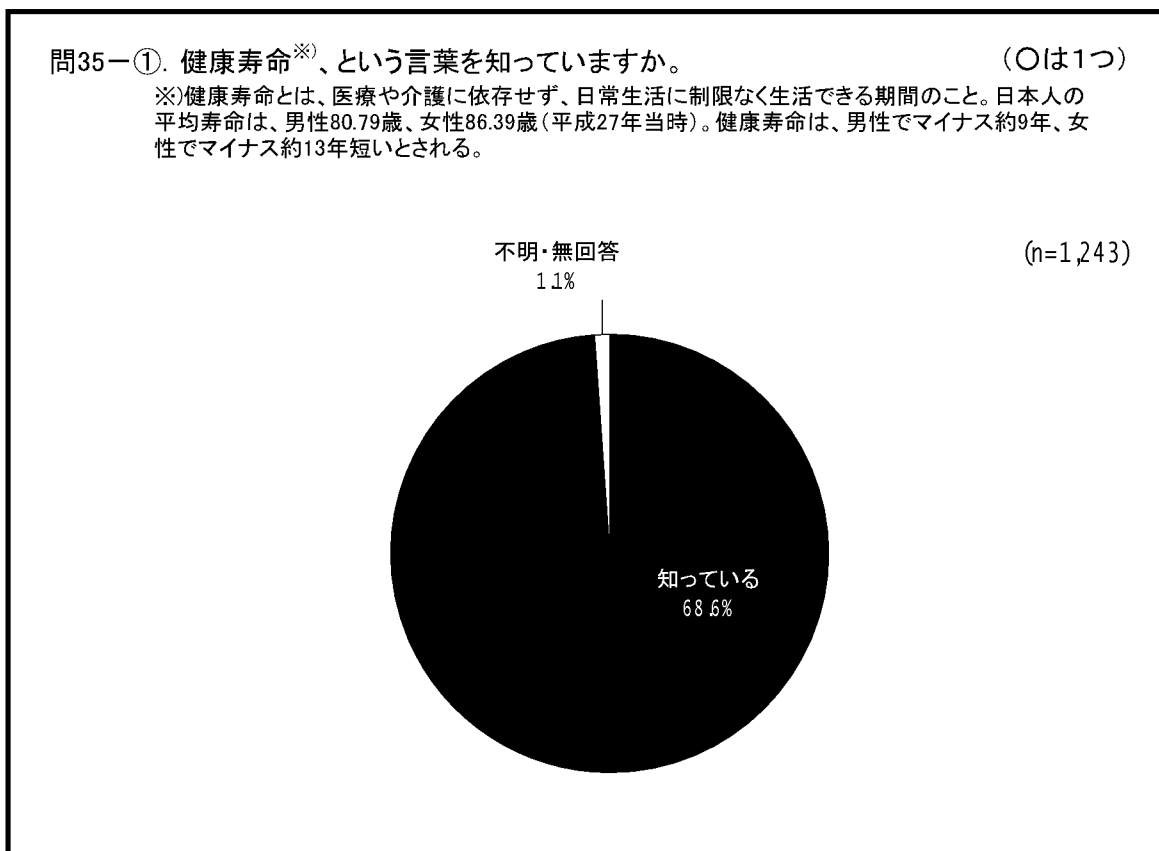
性別・年齢別にみると、「区の休日・夜間診療所に行く」は男性30代～50代、女性の20代と40～50代で6割以上と多くなっている。「救急車を呼ぶ」は男性60代以上で6割を超え、他の性・年齢と比較して多くなっている。

<性別・年齢別 休日や夜間に医療機関を受診する時の対応方法>



(11) 健康寿命について

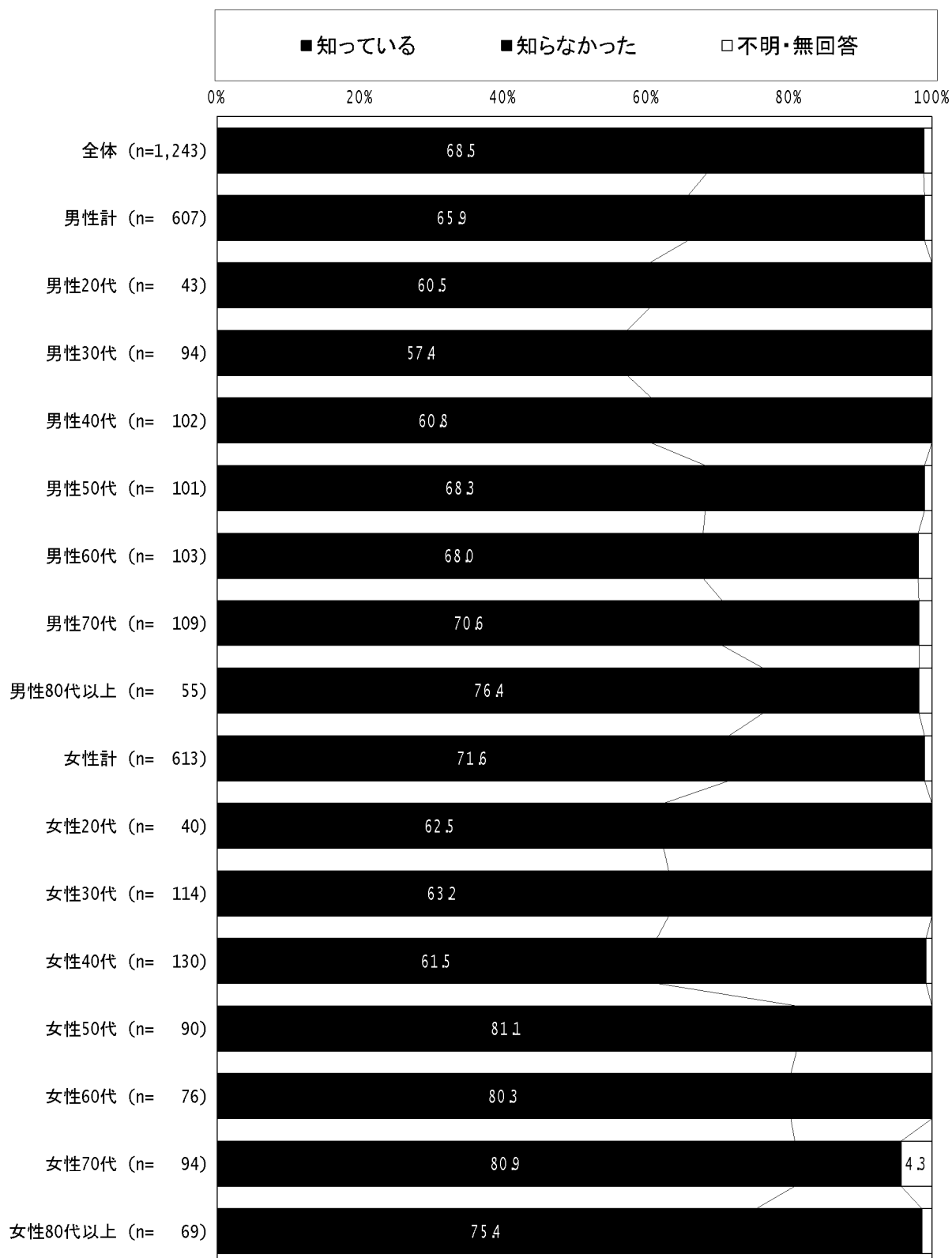
「健康寿命」の認知状況



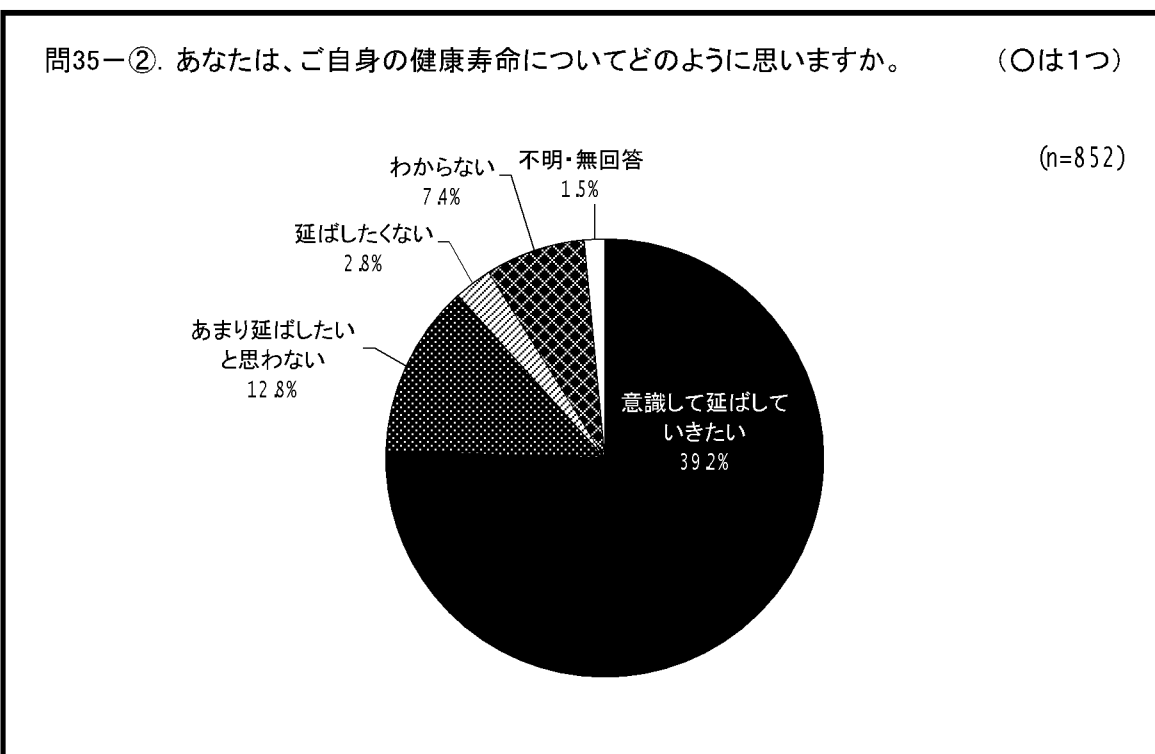
「健康寿命」の認知状況は、「知っている」が68.6%、「知らなかった」が30.3%となっている。

性別・年齢別にみると、「知っている」は女性50代～70代で8割を超え多くなっている。一方、男性30代では6割を下回っている。

<性別・年齢別「健康寿命」の認知状況>



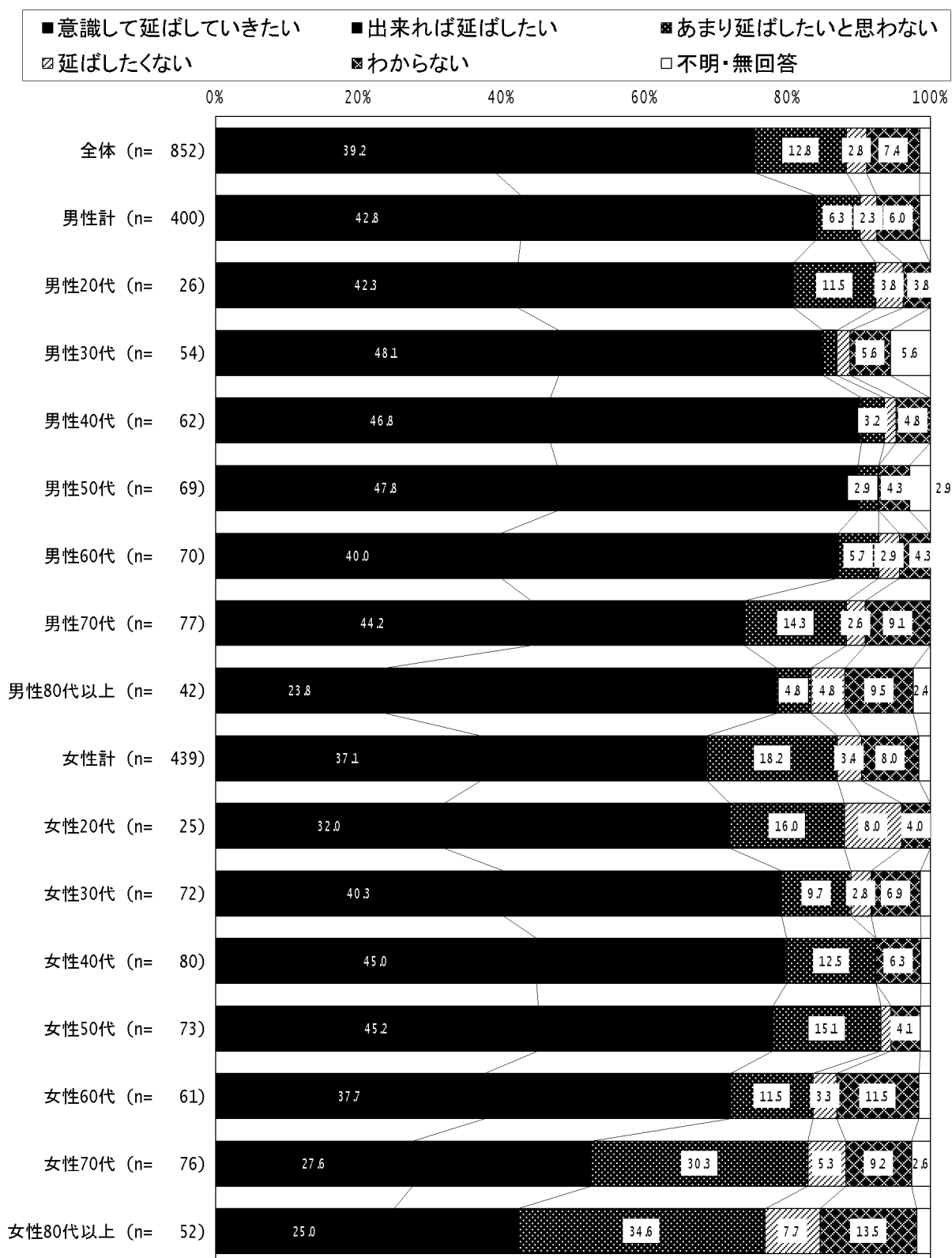
健康寿命についての考え方



「健康寿命」という言葉を知っている人に、健康寿命についての考え方をたずねたところ、「意識して延ばしていきたい」が39.2%と最も多く、次いで「出来れば延ばしたい」(36.3%)、「あまり延ばしたいと思わない」(12.8%)の順が続いている。

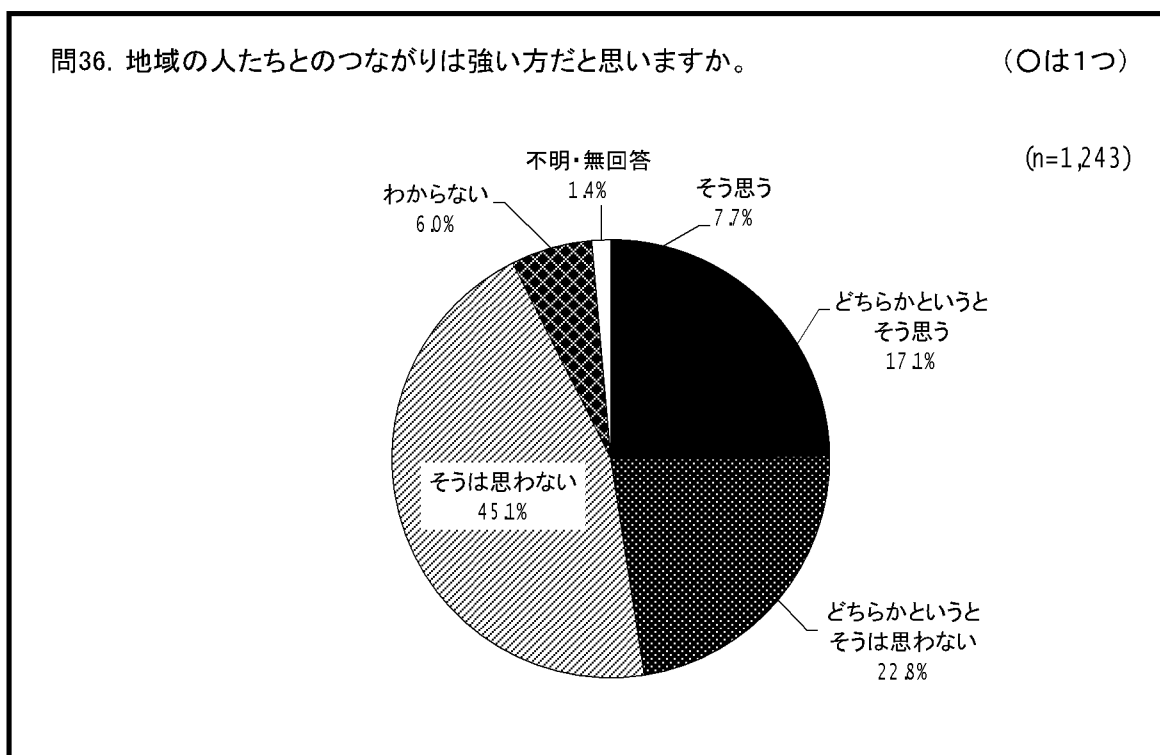
性別・年齢別にみると、「意識して延ばしていきたい」と「出来れば延ばしたい」を合わせた『延ばしたい』は男性40代で9割を超え多くなる一方、女性80代以上では5割を下回っている。

<性別・年齢別 健康寿命についての考え方>



(12) 地域活動について

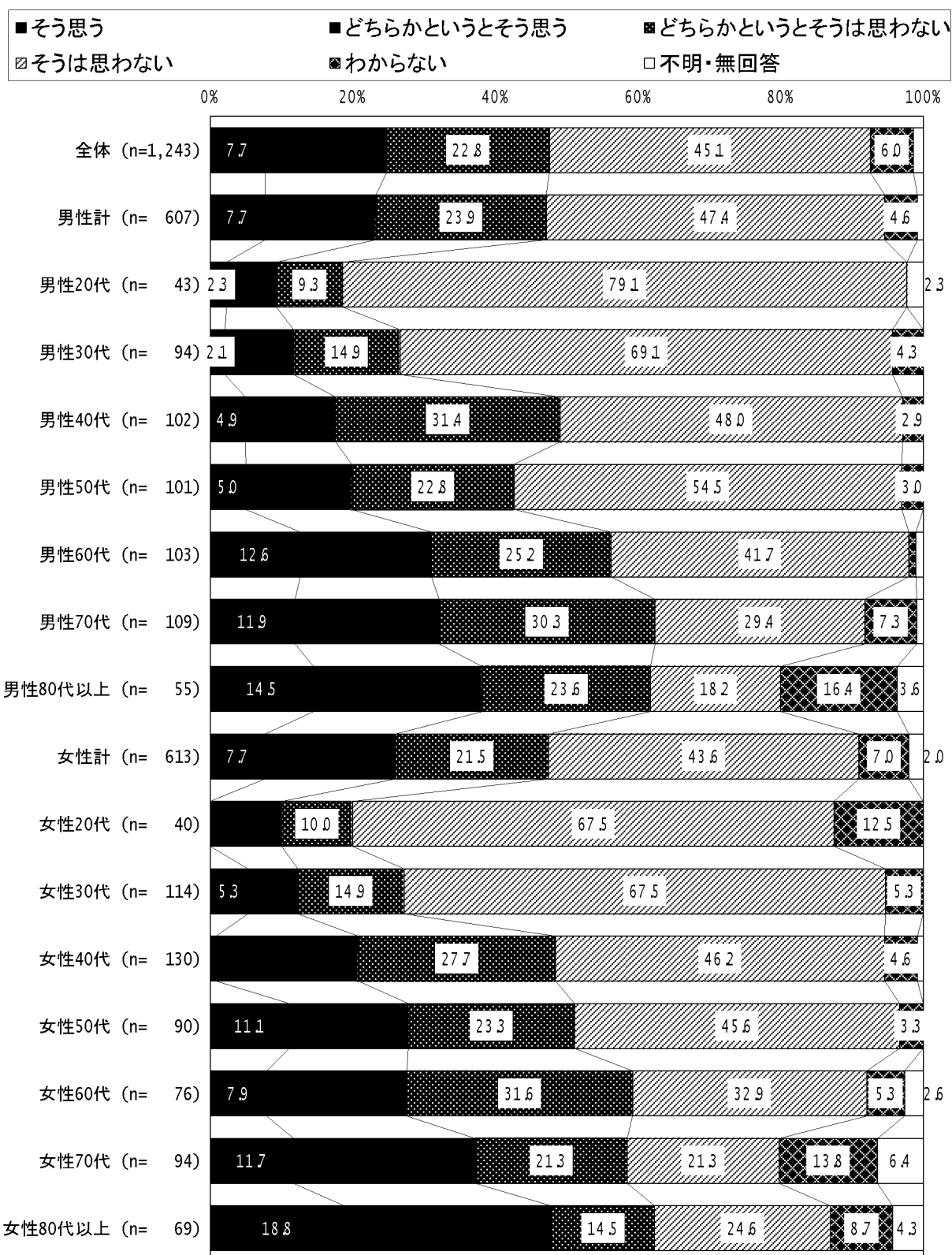
地域の人たちとのつながりは強い方か



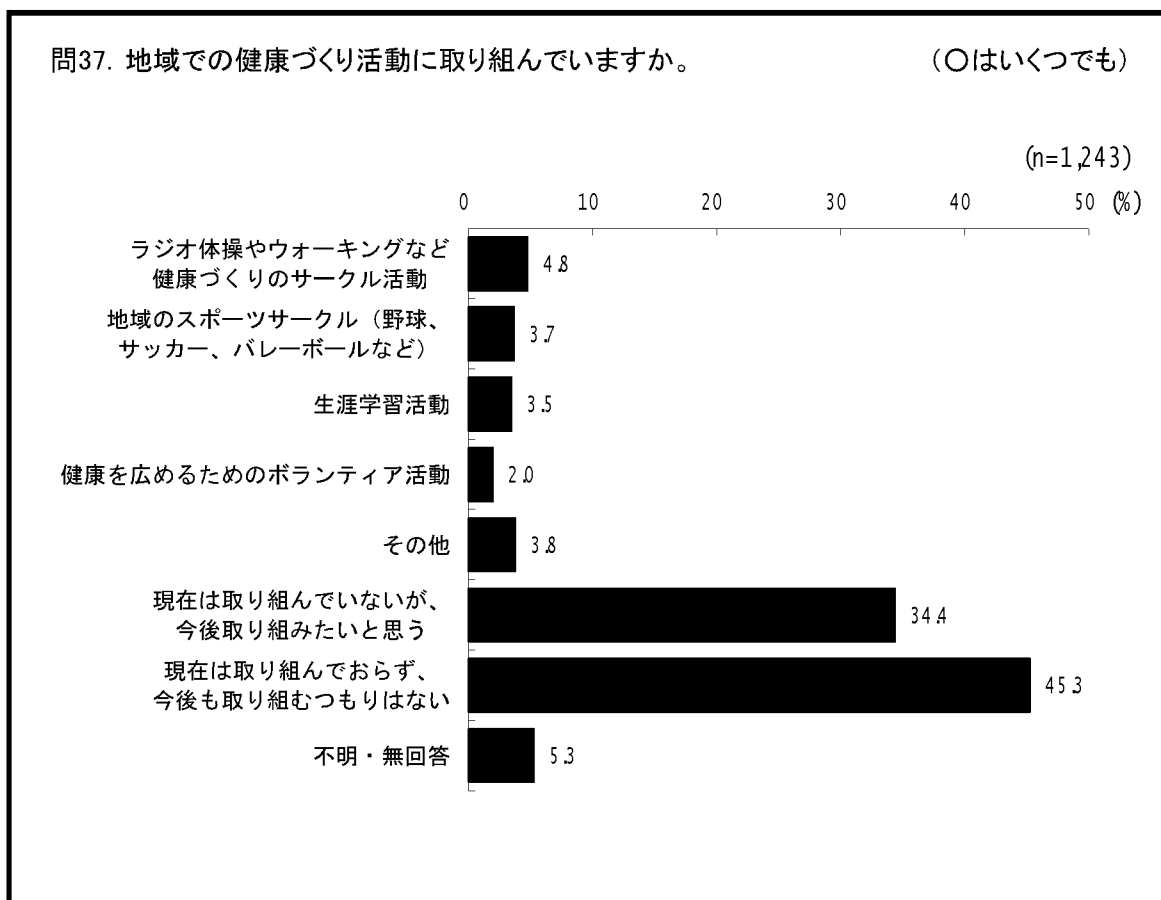
地域の人たちとのつながりは強い方かたずねたところ、「そうは思わない」が45.1%と最も多く、次いで「どちらかというそうは思わない」(22.8%)、「どちらかというそう思う」(17.1%)、「そう思う」(7.7%)の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「そう思う」と「どちらかというそう思う」を合わせた『そう思う』は年齢が上がるにつれて多くなる傾向があり、女性80代以上で4割を超えている。

＜性別・年齢別 地域の人たちとのつながりは強い方か＞



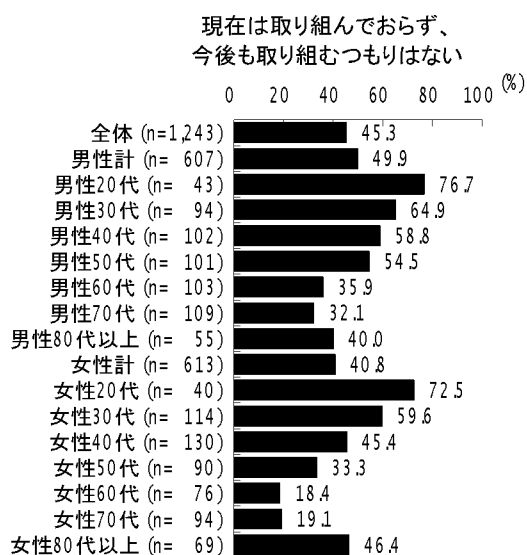
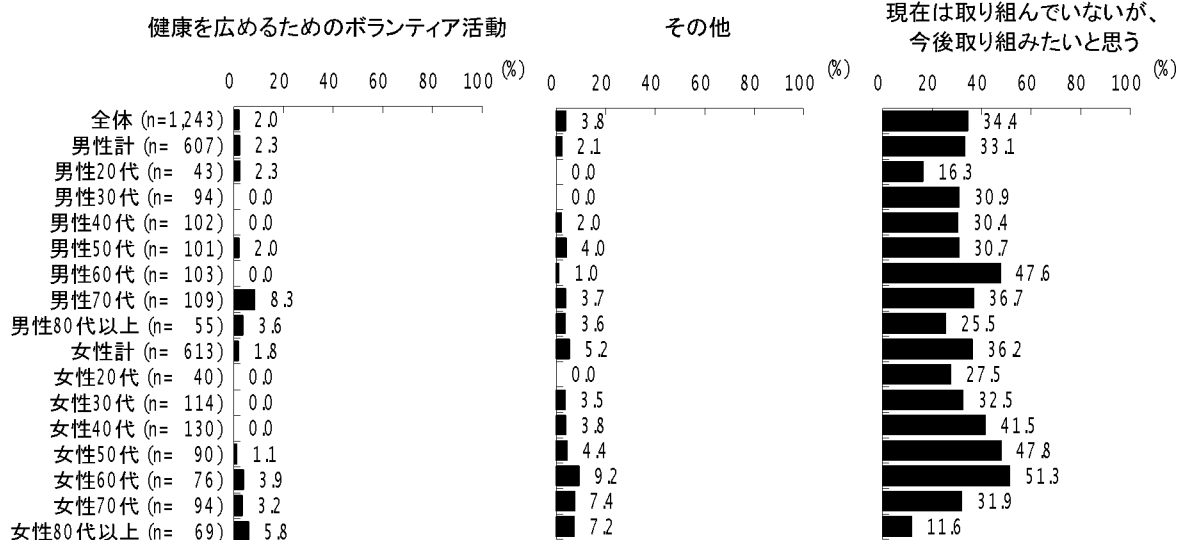
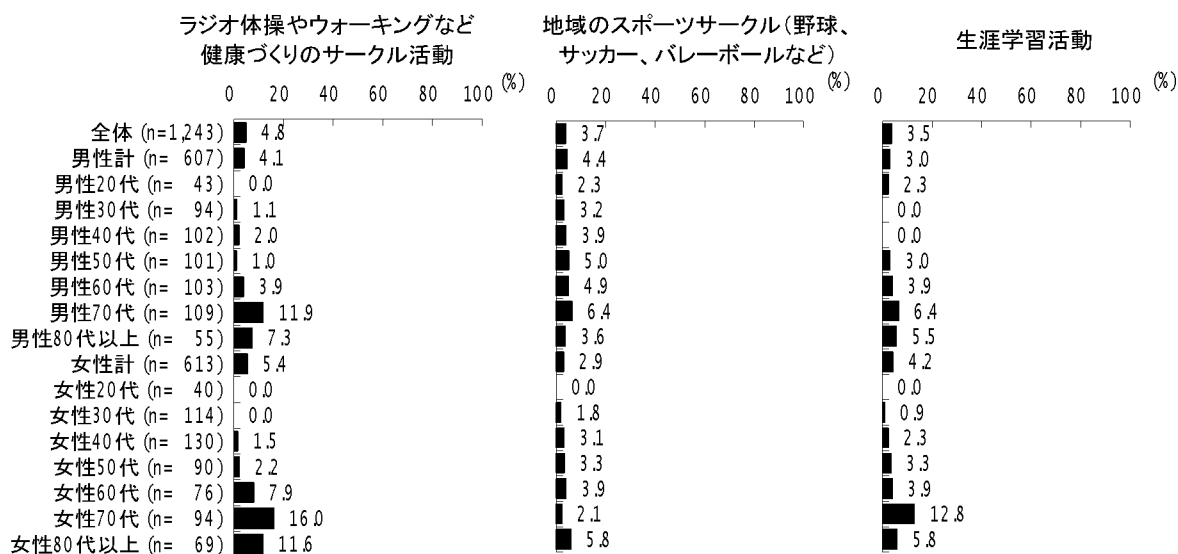
地域で取り組んでいる健康づくり活動



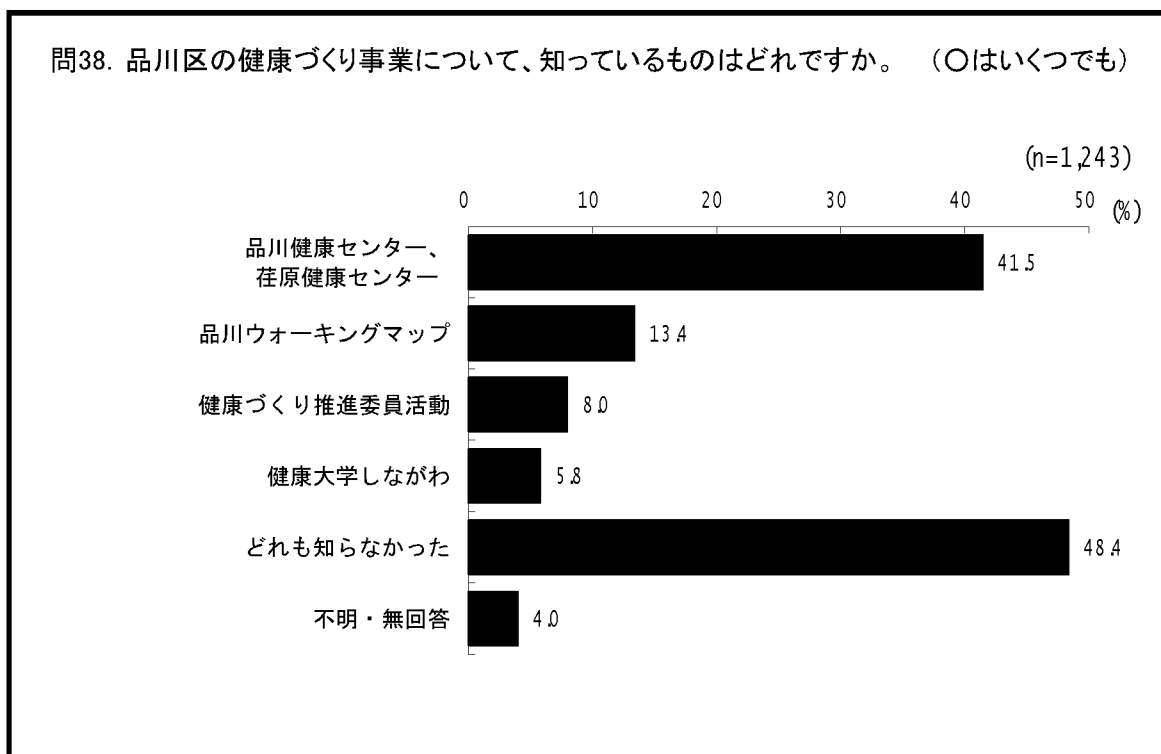
地域で取り組んでいる健康づくり活動は、「現在は取り組んでおらず、今後も取り組むつもりはない」が45.3%と最も多く、次いで「現在は取り組んでいないが、今後取り組みたいと思う」が34.4%となっている。取り組んでいる活動内容は「ラジオ体操やウォーキングなど」が4.8%で最も多いが、1割を下回っている。

性別・年齢別にみると、「現在は取り組んでおらず、今後も取り組むつもりはない」は年齢が下がるほど多くなる傾向があり、男女とも20代で7割を超えている。「現在は取り組んでいないが、今後取り組みたいと思う」は女性60代で5割を超え、他の性・年齢と比較して多くなっている。

<性別・年齢別 地域で取り組んでいる健康づくり活動>



品川区の健康づくり事業についての認知状況



品川区の健康づくり事業についての認知状況は、「どれも知らなかった」が48.4%と最も多く、次いで「品川健康センター、荏原健康センター」（41.5%）、「品川ウォーキングマップ」（13.4%）、「健康づくり推進委員活動」（8.0%）の順が続いている。

性別・年齢別にみると、「品川健康センター、荏原健康センター」は女性40代～60代で5割を超え多くなっている。「どれも知らなかった」は年齢が下がるごとに多くなる傾向があり、男性20代で約8割となっている。

<性別・年齢別 品川区の健康づくり事業についての認知状況>

